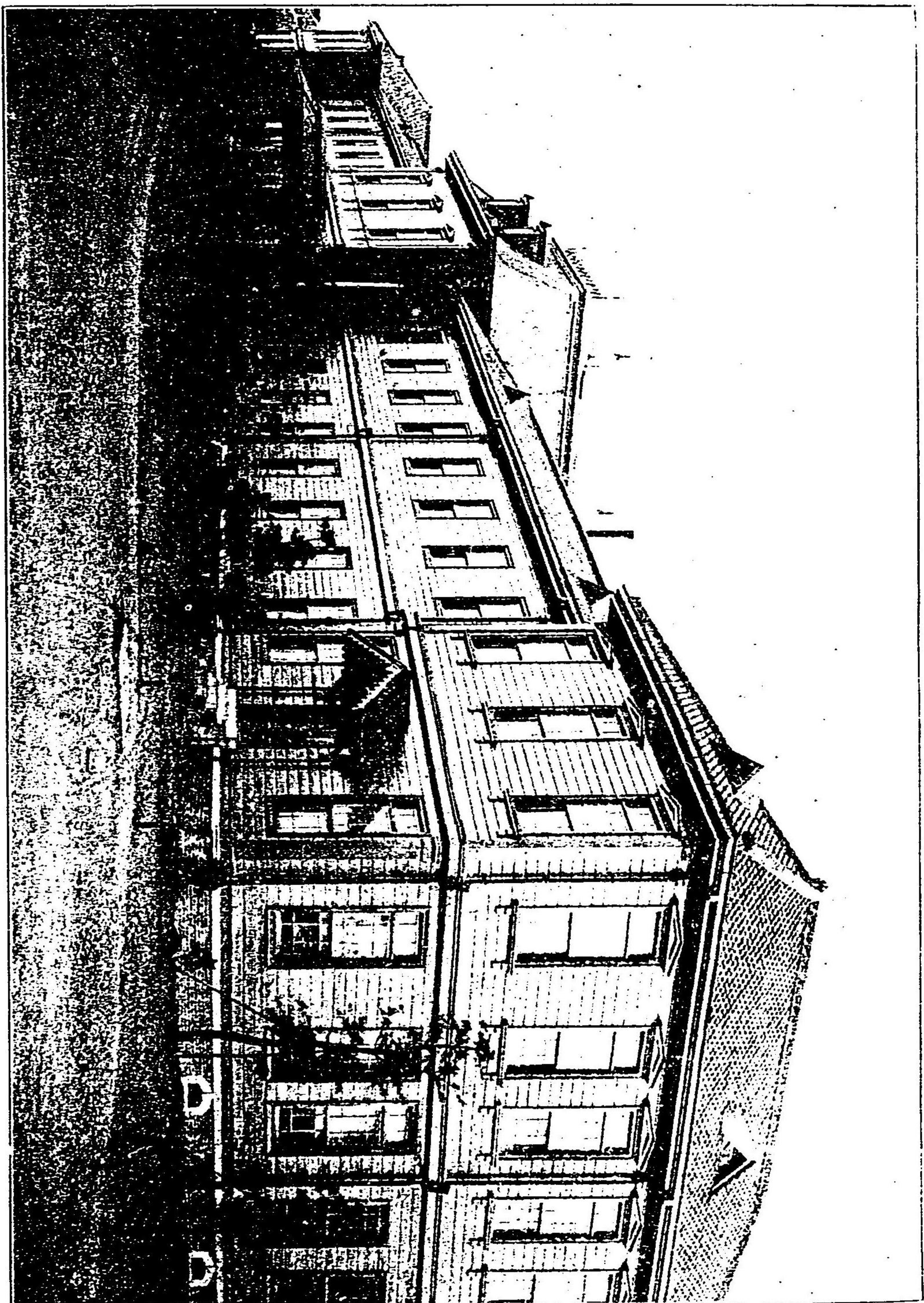


296
3

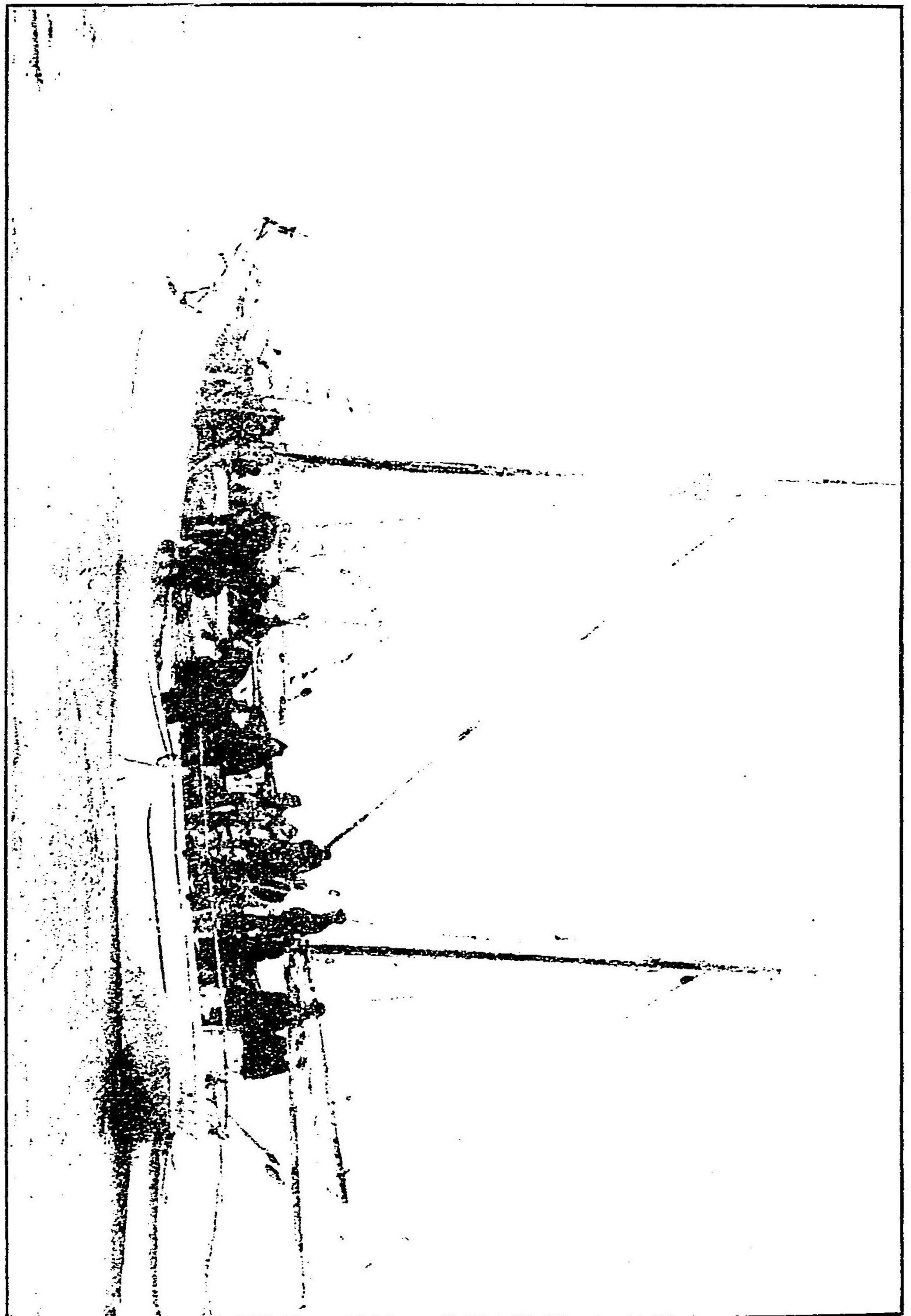
水產講習所一覽

自明治四十年七月
至明治四十一年六月



館

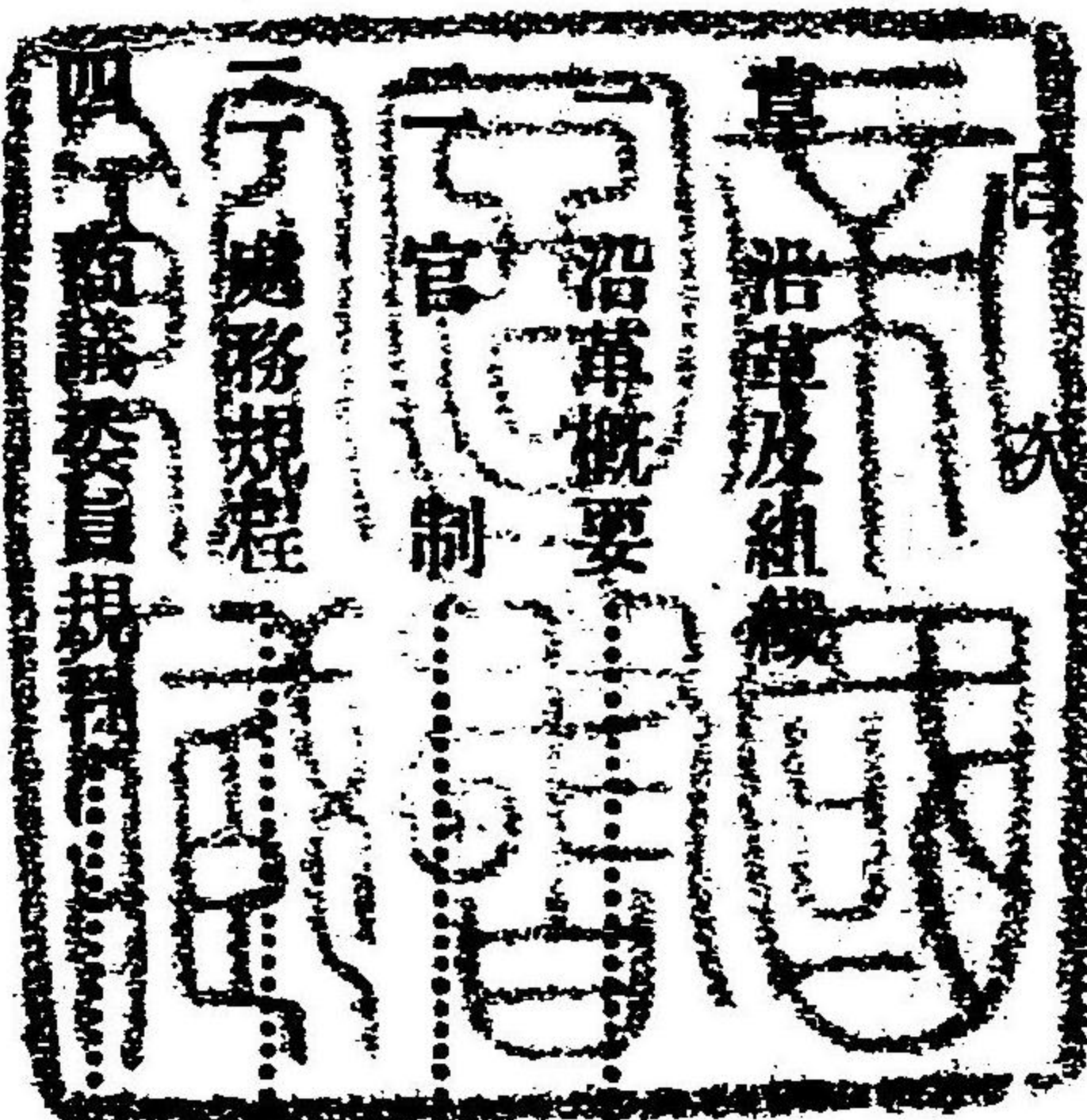
本



九 華 船 習 實

296-3

水產講習所一覽



第一章 沿革及組織

一 沿革概要.....一

二 官制.....六

三 職務規程.....七

四 商議委員規程.....九

五 水產講習所在外研究生規程.....一〇

六 商議委員.....一一

第二章 傳習部

第一節 職員.....一二

第二節 規則及規程.....一七

一 水產講習所傳習規程.....一七

目次

二 遠洋漁業練習生規程.....一九

三 水產講習所傳習規程.....二三

四 製鹽技術員養成科規程.....四三

五 實習規程.....四三

六 生徒心得.....四三

七 寄宿舍規程.....四三

八 圖書保管及び借覽規程.....四三

第三節 實習.....五二

一 本所實習.....五二

二 所外實習.....五二

第三章 試驗部

第一節 職員.....五六

第二節 水產講習所試驗規程.....五九

第三節 事業.....六一

海 41 7 7 内交

第四章 本所敷地並建物

第一節 費 合.....六七

第二節 實習ニ關スル設備.....七〇

一 漁撈科.....七〇

二 製造科.....七二

三 養殖科.....七三

第五章 生徒

第一節 在學生徒.....七三

一 生徒姓名.....七三

二 在學生徒府縣別.....八四

三 在學生徒年齡.....八七

四 遠洋漁業練習生乗船表.....八八

第二節 卒業生徒.....八九

一 卒業生徒及其就職.....八九

二 卒業生徒狀況.....一三五

學 年 曆 (自明治四十一年九月十一日 至 同四十二年七月十日)

明治四十一年九月十一日.....學 年 始 (第一學期始)

同 九月廿三日.....休 業 (秋季皇靈祭)

同 十月十七日.....同 (神嘗祭)

同 十一月三日.....同 (天長節)

同 十一月廿三日.....同 (新嘗祭)

同 十二月廿四日.....同 第一學期終

同 十二月廿五日.....同 冬季休業始

明治四十二年一月七日.....同 冬季休業終

同 一月八日.....同 第二學期始

同 一月三十日.....同 休 業 (孝明天皇祭)

同 二月十一日.....同 (紀元節)

同 三月 日.....同 (春季皇靈祭)

學 年 曆

同	三月二十二日	紀念日
同	三月三十一日	第二學期終
同	四月一日	春季休業始
同	四月七日	春季休業終
同	四月八日	第三學期始
同	七月十日	學年終
同	七月十一日	夏季休業始
同	九月十日	夏季休業終
同	同每日曜日	休業

水産講習所一覽

第一章 沿革及組織

一、沿革概要

本所ハ明治三十年四月開設シ水産ニ關スル學理ト技術トヲ授ケ諸般ノ試験ヲ行ヘリ而シテ本所ハ元大日本水産會ノ設立セシ水産傳習所在學ノ生徒ヲ引繼キタルヲ以テ其沿革ヲ摘録スルコトヲ左ノ如シ

明治二十二年一月大日本水産會ハ水産教育ノ必要ヲ主張シ寄附金ヲ以テ水産傳習所ヲ東京京橋區木挽町厚生館内ニ假設シ○同年七月日本橋區箱崎町ニ移轉シ後數月ニシテ又芝區三田四國町ニ轉セリ○明治二十六年五月農商務省ハ一箇年金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑托シタルヲ以テ更ニ疊合ヲ三田四國町ニ番地ニ新築シテ修業年限ヲ三箇年トシ教務ヲ擴張セリ○明治二十七年一月文部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定ス○同年九月卒業生ヲシテ漁船船員タルノ資格ヲ得セシムル爲メ商船學校ト聯絡シ

沿革概要

特別入學ノ制規ヲ定ム○明治二十九年十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑托シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ○同年第九議會ニ於テ衆議院ハ水産講習所ノ官設ヲ建議シ○明治三十年農商務省ハ其費用ヲ第十議會ニ請求シ官設トナシタルニ依リ水産講習所ハ茲ニ三月十一日限り閉所セリ

明治三十年三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレ次テ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上ト改メ修學ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スル者ノ爲メニ研究科ヲ設ケ修業ヲ一箇年以内トシ舊水産講習所ノ養舎ニ修繕ヲ加ヘテ之レヲ開設シ藤田四郎所長トナル○明治三十一年三月敎官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル○同年六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス○此月研究科ノ修業年限ヲ三箇年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス○同年七月現業科細則及傳習要項ヲ定メ同九月初メテ

罐詰及魚油魚蠟沃度製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル○同年十月官制及庶務規程ヲ改正ス○同年十一月敎朴真所長トナル○同三十二年一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ○同年十一月巾着網漁業ノ現業生徒ヲ募集ス○明治三十三年一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈製造養殖中ノ一科ヲ撰ミテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業練習科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ○同年三月勅令七十二號ヲ以テ官制第二條中改正○同年六月神奈川縣下小田原町ニ所外製造實習場ノ建築ニ着手シ同年七月其工ヲ竣ヘ同八月開場式ヲ舉行ス○同年九月深川區越中島ニ本所養舎ノ新營ニ着手シ三十六年三月其工ヲ竣ユ現在ノ養舎即是ナリ○同年九月漁撈實習ノ爲メ帆船ノ新營ヲ府下石川島造船所ニ依囑シ翌三十四年四月其進水式ヲ舉行シ快鷹丸ト命名ス○同年七月ヨリ漁撈科第三學年生徒ヲ乘組マシメ各種漁業ノ實習ヲナサシム○同年四月勅令第四十二號ヲ以テ官制第二條中改正ス○同年六月初テ經節其他節類

現業科生徒ヲ募集ス○三十五年四月文部省ヨリ水産教員養成ノ囑托ヲ受ケ全國ヨリ撰出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス○同年五月初メテ文部省ハ本科生徒中卒業後教員志望ノモノヘ實業教員養成規程ニヨリ學資ヲ補給ス○同年六月農商務省ヨリ地方水産試驗場講習所職員講究會授業ノ囑托ヲ受ク○同年九月現在ノ費舍ニ移轉ス○同十月第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ三十七年六月之ヲ本所内ニ移築セリ○三十六年十二月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラル○是月官制ヲ改正シ專任ノ所長ヲ置ク松原新之助所長トナル○三十七年二月處務規程ヲ改正シ更ニ處務細則及試驗部規程ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ○同三月傳習規則及傳習規程ヲ改正ス○同四月千葉縣下元鹽業調査所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ實習場トセリ○三十八年六月千葉縣製鹽實習場ヲ大藏省ノ所管トセリ○同年同月製鹽技術員養成規程ヲ定メ生徒ヲ募集セリ○三十七八年戰役ニ際シ陸軍省ト協議ノ上軍食罐詰ノ監督ヲナシ本所冷蔵庫ヲ同省ノ使用ニ供セリ○三十九年二月深川區冬木町養魚池ヲ本所々管ニ移サレタリ○同年四月以太利國美蘭ニ開カレタル萬國博覽會ニ本所ノ出品ヲナシ同年十一月萬國審

四

査委員ニ於テフオリコンコルソ(競争セナル名譽出品ト認メラレタリ○四十年三月冷蔵法練習生養成ノ内規ヲ定メ現業科トシテ生徒ヲ募集セリ○四十年四月六日水産傳習所ノ創設ヨリ廿年本所ノ開始ヨリ十年ニ相當スルヲ以テ紀念ノ式典ヲ舉ゲ植樹ヲナシ翌七日所内ヲ一般公衆ノ觀覽ニ供セリ○同月勅令第四百十七號ヲ以テ官制第二條中改正ス○同六月捕鯨砲手養成ノ必要ヲ認メ現業科生トシテ其授業ヲ開始セリ○同九月六日實習船隼丸ノ建造設計成リ石川島造船所ニ於テ工ヲ起シ同年十二月二日其ノ進水式ヲ舉ケ同月廿九日ヨリ生徒ノ實習ニ使用セリ○同九月九日實習船快鷹丸(總噸數百四十噸)ハ實習中韓國迎日灣ニ於テ風破ノ難ニ遭ヒ避難ノ途ナク同灣口冬外串ノ突角九萬里沿岸ノ岩礁ニ打揚ケラレ忽ニシテ破壊シ終ニ教官一名生徒三名ハ此難ニ殉スルノ不幸ヲ見ル至レリ茲ニ於テ本所ハ漁撈科生徒實習ノ機關ヲ失シ止ヲ得ス民間實業者ノ漁船ニ乘組實習セシメタルモ規定ノ期限内ニ於テハ豫定ノ實習ヲ完了セシムルコト能ハザリシヲ以テ該生徒ノ卒業期ヲ四十年十月マテ延期シテ其實習ヲ繼續セリ○四十年十月廿五日勅令第三百廿九號ヲ以テ在外研究生規程ヲ公布セラル○本所ハ速ニ快鷹丸代船新造ノ必要アルヲ以

テ四十年十一月追加豫算ノ請求ヲ爲シ議會ノ協賛ヲ得タルヲ以テ直ニ工學博士寺野精一工學士岡田少三郎同松田勉三ノ三氏ニ其設計ヲ囑托シ設計成リタルヲ以テ四十一年五月一日大阪鐵工所ニ命シ其ノ建造ニ着手セリ該船ハ噸數凡三百五十噸ノ「パーク」形鋼製帆船ニシテ三百馬力ノ補助機關ヲ設備シ機關ノミヲ用ユルトキハ凡八哩ノ速力ヲ有セシムル豫定ナリ

六

二、官制

勅令第四七號明治三十年三月二十二日
勅令第二八九號明治三十一年十月二十二日改正
勅令第二三六號明治三十六年十二月四日改正
勅令第一四七號同四十年四月二十三日改正

第一條 水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
技師專任	六人
教授專任	四人

技手專任

十二人

助教專任

四人

書記專任

五人

第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス

第五條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第八條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 農商務大臣ハ講習上ノ須要ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

三、處務規程

(農商務省訓令第四十號明治三十一年十一月二十八日
同 第三號同三十七年一月二十三日改正)

官制 處務規則

水産講習所處務程規

八

- 第一條 水産講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付キ其責ニ任ス
- 第二條 水産講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得
- 第三條 水産講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則又ハ講習及試験ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 水産講習所長ハ講習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ
- 第五條 水産講習所長ハ講習及試験ノ成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
- 但臨時必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ
- 第六條 水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ
- 第七條 水産講習所長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第八條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ水産局長ヲ經由スヘシ

四、商議委員規程

(農商務省訓令第十一號 明治三十年四月十九日)

- 第一條 水産講習所官制第九條ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ置ク
- 第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 農商務省高等官 一名
 - 二 海軍省文部省逓信省又ハ其所屬高等官 四名以内
 - 三 水産ノ經歷アルモノ 五名以内
- 第三條 商議委員ノ會議ニ附スベキモノハ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス
- 第四條 商議委員會ハ農商務大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ
- 第五條 商議委員會ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス
 - 一 但シ商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得
- 第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得
- 第七條 商議委員會ノ議決ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告ス可シ

商議委員規程

水産講習所在外研究生規程

九

五、水産講習所在外研究生規程

(勅令第三百二十九號 四十年十月廿五日)

第一條 水産講習所在外研究生ハ外國ニ於テ水産ニ關シ須要ナル學術技藝ヲ研究セシムル爲水産講習所ヲ卒業シタル者又ハ水産講習所ノ技術官若ハ教官中ニ就キ農務大臣之ヲ命ス

第二條 水産講習所在外研究生ノ研究スヘキ事項研究地及在外期間等ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第三條 水産講習所在外研究生ニハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ一年金千八百圓以内ノ手當ヲ支給ス但シ各地巡歴研究ノ必要アルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキハ相當ノ手當ヲ増給スルコトヲ得

第四條 水産講習所在外研究生ニハ判任官ニ準シ旅費及支度料ニ支給ス

前條但書ノ場合ニ於テ在官者ナルトキハ手當ヲ増給セス其ノ官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

旅費及支度料ノ支給方法ハ外國旅費規則ニ依ル

第五條 在官者ニシテ研究生ヲ命セラレタル者ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄定員外ニ置キ本官ノ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ特ニ俸給三分ノ一以内ヲ支給スルコトヲ得

第六條 水産講習所在外研究生ハ歸朝ノ日ヨリ其ノ在外期間ノ二倍ニ相當スル期間農商務大臣ノ指定スル職務ニ従事スル義務ヲ有ス

第七條 水産講習所在外研究生ニシテ農商務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ其ノ支給シタル手當旅費及支度料ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム水産講習所在外研究生タリシ者ニシテ歸朝後前條ノ義務ヲ盡ササルトキ亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六、商議委員

本所商議委員規程ニヨリ目下委嘱中ノ商議委員ハ左ノ如シ

東京帝國大學理科大學教授

理學博士 箕 作 佳 吉

商議委員

水路部長
商工局長
管船局長
商船學校長
貴族院議員

海軍中將 肝付 兼行
海軍少將 坂本 一
大久保利武
內田 嘉吉
海軍大佐 平山藤次郎
田中 芳男
牧 朴 眞
榎山半三郎

所長

技師

松原新之助

第二章 傳習部

第一節 職員

技師

製造化學、化學(有機化學)冷藏法	試驗部長	理學士	吉岡哲太郎
應用動物學(魚類習性)	農商務技師		北原 多作
食品論(罐詰及凍乾品)漁獲物處理法	製造科主任		伊谷以知二郎
漁撈論(網漁)	漁撈科主任		川合 角也
鹹水養殖、應用動物學、發生學	標本掛主任	理學士	妹尾 秀實
漁船論	農商務技師	工學士	岡田少三郎

教授

應用植物學、鹹水養殖(藻類蕃殖法)	養殖科主任	理學博士	岡村金太郎
應用機械學、漁撈論(材料)	機械監督		崎 田 弘
經濟(漁業政策)	庶務課長	法學士	田島勝太郎
漁船運用術			黑田九萬男

技手

職員

製造實習

食品論(乾製品、鹽藏品)

淡水養殖(冷水性魚族)應用動物學(組織)

漁船論(日本形漁船)

化製品論(皮革)

化製品論(魚油鹽)

分析實驗

淡水養殖(溫水性魚族)

漁撈實習(年九乘組)

漁撈實習

十四

田和 駒吉

伊笠 茂松

越田 德次郎

關根 磯吉

鍋島 能道

兼 菊池 健

兼 益滿 行綱

兼 九川 久俊

奧津 興美

鎌田 武造

野元 俊一

宮崎 賢一

野元 俊一

助教

化製品論(製鹽)化學實驗

教務

微生物實驗

在外研究生(德國)

在外研究生(英國)

書記

會計

文書兼會計

教務

會計

庶務課文書主任掛
兼會計掛

木村 金太郎

日暮 忠

小瀬 次郎

西山 小太郎

石原 重資

山田 德助

小澤 嘉助

講師

航海術

捕鯨砲術

製鹽法

鹽專賣法

職員

海軍 大佐

海軍造兵大監

專賣局技師

大藏書記官

岸 榮太郎

高松 數馬

奧 健藏

松本 重威

十五

微生物學
海洋入學
化學(無機化學)分析
大藏技師 農學士 西村寅三
田中阿歌麿
工學士 市野金一郎

囑托

氣象學
鹽檢查法
漁撈論(釣漁)
數學簿記物理
圖書掛
法規
救急療法
圖書
外國語經濟
中央氣象臺技手
專賣局技手
井口龍太郎
立木幸三
中村利吉
池上泰次郎
西尾茂松
高橋順平
北村銀平
浦田淳造
檜山剛三

第二節 規則及規程

一、水產講習所傳習規則

(農商省告示第九十號明治三十七年四月改正)
(農商省告示第九十號明治三十七年四月改正)

- 第一條 本所ハ水産ニ關スル學理及技術ノ講習ヲ爲ス
- 第二條 本所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及現業科ヲ置ク
- 第三條 本科ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分テ各科ニ必要ナル學理及技術ヲ專修セシメ、其ノ修業年限ヲ三箇年トス
- 第四條 遠洋漁業科ハ本所實習船又ハ其ノ他ノ船舶ニ乘組ミ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシメ、其ノ修業年限ヲ三箇年トス但シ修業年限ハ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第五條 研究科ハ既修學科ノ蘊奧ヲ攻究セシメ、其ノ修業年限ヲ三箇年以内トス
- 第六條 現業科ハ漁撈、製造、養殖ノ三科中種目ヲ限リ專ラ技術ヲ習得セシメ、其ノ修業年限ヲ一箇年以内トス但シ其ノ種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第七條 本所ハ授業料ヲ徴收セス

第八條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第九條 入學志願者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一、本科ニ於テハ年齢滿十七歲以上ニシテ中學卒業者ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

二、遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業練習生規程ニヨリ採用セラレタルモノ又ハ本所漁撈科卒業生

三、研究科ニ於テハ本科ノ卒業生

四、現業科ニ於テハ二箇年以上水産ノ實業ニ従事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシテ年齢二十年以上三十年以下ノモノ

第十條 本科ヲ卒ヘタルモノニハ卒業證書遠洋漁業科又ハ研究科ヲ卒ヘタルモノ

ニハ證明書現業科ヲ卒ヘタルモノニハ修業證書ヲ授與ス

第十一條 本所生徒ニシテ學術優等品行方正他ノ模範トナルヘキモノハ特待生トナシ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第十二條 本所ノ規則告示其ノ他命令ニ違反シ若ハ風儀ヲ紊ス等ノ行爲アル者ハ其ノ情狀ニヨリ懲罰ヲ加フ

第十三條 學業ヲ怠リ成業ノ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス

第十四條 本規則施行ニ關スル規程ハ水産講習所長之ヲ定ム

附 則

第十五條 本規則ハ明治三十七年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ入學ニ關フル規定ハ明治三十七年度募集ノモノニ之ヲ適用ス

一、遠洋漁業練習生規程

農商務省告示第十一號
明治三十一年五月六日制定同三十三年九月改正
農商務省告示第九十二號明治三十七年四月改正
同第百二十九號同三十八年五月改正

第一條 遠洋漁業練習生ハ本科生及簡易科生トシ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ撰拔採用ス

一、本科生

水産講習所本科漁撈科卒業生又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スト認ムル者

遠洋漁業練習生規程

二、簡易科生

二十七

一、各種水産學校又ハ地方水産講習所ニ於テ漁撈ニ關スル學科ヲ卒業シタル者

二、一年以上航洋船ニ乗組運航ニ從事シタル者又ハ二年以上沖合ノ漁業ニ從事シタル者

第二條 前條ニ依リ採用セラレタル者ハ本科生ニ在リテハ水産講習所遠洋漁業科簡易科生ニ在リテハ水産講習所現業科ニ於テ遠洋漁業ニ關スル學術技能ヲ練習セシムルモノトス但シ農商務大臣ニ於テ外國ノ船舶ニ乗組ヲ命ジタルトキ又ハ外國ニ派遣ヲ命ジタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 遠洋漁業練習生ノ修業年限ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外本科生ハ三年簡易科ハ一年トス

第四條 遠洋漁業練習生採用ノ員數時期及本規程ニ定メサル出願ノ手續其ノ他之ニ關シ必要ナル事項ハ便宜之ヲ定ム

第五條 遠洋漁業練習生ノ志願者ハ第一號書式ニ依リ願書ニ履歷書及醫師ノ體格

検査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條 遠洋漁業練習生ニ採用セラレタルトキハ一週間以内ニ第二號書式ニ依リ證書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條 遠洋漁業練習生保證人ハ身元正シク相當ノ財産アル者タルコトヲ要ス保證人破産シ又ハ死亡シ其ノ他保證人ニ適セサル事故發生シタルトキハ更ニ他ノ保證人ヲ定メ遲滯ナク之ヲ届出ヘシ

第八條 遠洋漁業練習生ニハ其ノ修業年限間相當ノ月手當金ヲ支給ス但シ一時手當金ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

外國ニ派遣ヲ命シ又ハ外國ニ於テ旅行ヲ要スル調査ヲ命ジタルトキハ前項ノ外別ニ旅行手當金ヲ支給スルコトアルヘシ
手當金ノ額及其ノ支給方法ハ隨時之ヲ定ム

第九條 遠洋漁業練習生ニシテ修業年限ヲ了ヘタル者ニハ其ノ成績ヲ考査シ修業證書ヲ下付ス

第十條 農商務大臣ハ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサル者又ハ成業ノ見込

ナキ者其ノ他相當ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ遠洋漁業練習生ヲ解免シ又
 ハ手當金ノ支給ヲ停止若ハ減少スヘシ其ノ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セ
 サルトキ又ハ怠慢若ハ不品行ニシテ解免セラレタルトキハ既ニ支給シタル手當
 金ノ全部又ハ一部ヲ本人又ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ

第一號書式

遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御採用相成度此段奉願候也

年 月 日

族籍住所職業誰子弟
 本人 姓 名 印

族籍住所職業
 生年月日

保證人 姓 名 印

農商務大臣爵氏名殿

第二號書式

印紙

證

私儀遠洋漁業練習生ヲ命セラレタルニ就テハ御規則命令等堅ク遵守可致ハ勿
 論萬一規程第十條ニ依リ手當金ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證
 人ニ於テ速ニ償還可致候也

年 月 日

族籍住所職業誰子弟

本人 姓 名 印

族籍住所職業
 姓名 印

保證人 姓 名 印

農商務大臣爵氏名殿

三、水産講習所傳習規程

第一章 總 則

水産講習所傳習規則

第一條 本所ニ於テハ水産ニ關スル學理及技術ヲ授ク
 第二條 本所ニ本科遠洋漁業科研究科及現業科ヲ置ク
 第三條 本科ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル學理及技術ヲ學修セシム
 第四條 遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシム
 第五條 研究科ニ於テハ既修學科ノ淵奧ヲ攻究セシム
 第六條 現業科ニ於テハ漁撈製造及ヒ養殖ニ關シ種目ヲ限リ其ノ實技ヲ習得セシム
 第七條 修業年限ハ本科及遠洋漁業科ハ各三箇年研究科ハ三箇年以内現業科ハ一箇年以内トス
 第八條 各科募集ノ人員時期其他募集ニ關シ必要ナル事項ハ每年之ヲ定メ廣告スヘシ

第二章 本科規程

一 學科課程

第九條 本科ハ一箇年ヲ以テ一學年トス其ノ學科及課程左ノ如シ

學科目	漁撈科		
	第一學年	第二學年	第三學年
漁業學	五	五	不定時
航海學	四	四	不定時
海象學	二	二	不定時
氣象學	二	二	不定時
應用植物學	二	二	不定時
應用船舶機械	一	三	不定時
漁獲物處理	一	二	不定時
漁業法規	三	四	不定時
救急國語	二	二	不定時
外國語	四	二	不定時
計	三〇	二八	
實習	一回	一回	不定時
航海網漁	一回	一回	不定時
船舶運送			不定時
漁具製作用			不定時

習實及驗實		計	圖	外	法	化	海	微	發	應	應	蓄	鹹	淡	養殖科	
養	微		藻	發	植	動	化	規	經	生	用	用	殖	水		水
生	殖	菌	類	生	物	物	學	語	記	學	學	學	學	學	護	殖
第三學期二回	第三學期二回	二四	二	四	一	三	二	三	三	三	三	三	三	三	第一學年	
二回	一回	一回	三	三	四	一	四	二	三	三	二	三	三	三	第二學年	
不定時															第三學年	

習實及驗實		計	外	法	應	應	應	微	分	化	製	化	食	製造科
製	微		分	規	用	用	用	生	造	製	品	品	品	
生	造	菌	折	學	語	記	學	學	學	學	學	學	論	
二回	一回	二回	二	五	四	一	四	一	三	二	四	三	三	第一學年
二回	三回	一回	四	一										第二學年
不定時														第三學年

數學ハ代數幾何三角術圖畫ハ自在書外國語ハ英語トス

二、學年學期及休業

第十條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第十一條 本科ノ學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第十二條 休業日左ノ如シ

- 一日 曜日
- 一大祭及祝日
- 一冬季休業 自十二月二十五日 至翌年一月七日
- 一紀念日 三月二十二日
- 一春季休業 自四月一日 至四月七日
- 一夏季休業 自七月十一日 至九月十一日

第十三條 實習ハ休業中ト雖時宜ニヨリテ從事セシメ本科第三學年及遠洋漁業科

ニ於テハ夏季休業ヲナサス

三、入學

第十四條 入學ハ學年ノ始メトシ學年ノ終リニ於テ入學試業ヲ行ヒ之ヲ許可ス

第十五條 入學志願者ハ三科中一科ヲ撰ヒ入學ノ後ハ轉科スルコトヲ許サス

第十六條 入學者ノ資格ハ中學卒業者ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ年齡滿十七年以上ニシテ入學試業ニ合格シタルモノトス

第十七條 入學試業ハ中學卒業ノ程度ニヨリ左ノ學科ヲ試験シ及體格検査ヲ行フ

- 一讀書 國語漢文
- 一作文 漢字交リ文、日用文
- 一動物學
- 一植物學
- 一物理學
- 一化學
- 一地理 本邦地理及外國地理

水産講習所傳習規程

- 一 數 學 算術、代數、幾何、三角術
- 一 外 國 語 (英語) 英文和譯、和文英譯、文法
- 一 圖 書 自在書

第十八條 入學志願者ハ第一號及第三號ノ書式ニ依リ各地方廳ヲ經由シ入學願書並ニ履歷書ヲ差出スヘシ但シ東京ニ於テ受験セントスルモノニアリテハ直ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

第十九條 地方ニ於テ入學試驗ヲ施行スル場合ニハ第五條書式ノ検査書ニヨリ入學志願者ノ體格ヲ檢定ス

第二十條 退學シタルモノ再入學ヲ請フトキハ證議ノ上學年ノ始メニ於テ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

四、在 學

第二十一條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ其年九月十日迄ニ第四號書式ノ在學證書ヲ差出スヘシ

第二十二條 保證人ハ二人トシ内一人ハ父兄親戚又ハ其入學者ニ學資ヲ支給スル

モノ他ノ一人ハ東京市公民タルヲ要ス

第二十三條 保證人死去若ハ轉住スル等ノコトアルトキハ速ニ之ヲ改メ轉居、旅行、改印等ノコトアルトキハ其都度直ニ届出ツヘシ

第二十四條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノ第二十一條ノ成規ヲ履行セサルトキハ在學スルヲ得ス

五、 缺席、 缺課

第二十五條 疾病其他ノ事故ニヨリ缺課缺席セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ通學生ハ保證人連署寄宿生ハ生徒取締ノ證明ヲ得テ之ヲ届出ヘシ

但疾病ニ因リ引續缺席一週間以上ニ涉ルトキハ通學生ニアリテハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書寄宿生ニアリテハ本所囑托醫ノ證明書ヲ其ノ届書ニ添付スヘシ

六、 休 學

第二十六條 疾病其他ノ事故ニヨリ一學期以上修學スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ其ノ學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

水産講習所傳習規則

第二十七條 休學ノ許可ヲ得ントスルモノハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ其ノ疾病ニ因ルモノハ本所囑託醫又ハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書ヲ其ノ願書ニ添付スヘシ

第二十八條 休學者ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ編入ス

但シ一年志願兵トナリ服役滿期後直ニ就學セントスルモノハ其學年ニ於テ原級ニ編入ス

七、特待

第二十九條 學術優等品行方正ナルモノハ特待生トナスコトアルヘシ

第三十條 特待生ニハ學資ヲ補給ス

第三十一條 特待生ニシテ品行不良學業懈怠若ハ疾病ニ罹リ修業ニ堪ヘ難シト認ムルトキハ其特待ヲ停止ス

八、懲罰

第三十二條 規則若ハ命令ニ違反シ又ハ怠惰不品行其ノ他生徒タルノ本分ニ背クノ行爲アルモノハ懲罰ス

第三十三條 懲罰ヲ別テ戒飭停學放所トス

九、退學及除名

第三十四條 疾病又ハ其他ノ事故ニ因リ退學セントスルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署願出ヘシ

第三十五條 左ノ事項ニ該當スルモノハ之ヲ除名ス

- 一 數々遅刻缺課又ハ缺席スルモノ
- 二 一ヶ月以上無届缺席スルモノ
- 三 一學期間全ク出席セサルモノ
- 四 停學ノ處分三回ニ及フモノ
- 五 二學年間同一ノ學級ニ在リテ進級スルコトヲ得サルモノ
- 六 成業ノ見込ナキモノ

十、試業進級及卒業

第三十六條 學科ノ試業ハ一學期間一回以上隨時ニ之ヲ行フ

第三十七條 實驗及實習ノ評點ハ平生ノ成績勤怠及報告書ニ依リ之ヲ定ム

第三十八條 試業ノ評點ハ一百ヲ以テ定點トス

第三十九條 各學期ノ終ニ於テ其ノ學期間ニ於ケル學科及實驗實習ノ評點ヲ計算シ其ノ平均點ヲ以テ學期試業各學科及實驗實習ノ得點トス

第四十條 各學年ノ終ニ於テ當該學年中ノ學期試業各學科ノ得點ヲ平均シ之ヲ其學年各科目ノ得點トナス

第四十一條 學年ノ成績各學科ノ得點五十以上實驗實習ノ得點六十以上平均點六十以上ヲ得タモルノハ進級又ハ卒業セシム

但シ學科ノ得點ハ一科目ニ限リ四十點以上五十點未滿ノ得點アルモ進級又ハ卒業ヲ妨ケス

第四十二條 最終學年ノ試業ニ及第シタルモノハ卒業證書ヲ授與ス

第四十三條 在學中學業優等品行善良ナルモノニハ特ニ優等卒業證書ヲ授與ス

第三章 遠洋漁業科規程

第四十四條 遠洋漁業科生徒ハ遠洋漁業練習生トシテ採用セラレタルモノ及本所漁撈科卒業生ノ志願者ヨリ撰拔セラレタルモノトス

第四十五條 本科漁撈科卒業ノ資格ヲ有スル志願者ノ員數定員ニ超過スルトキハ試験ニ因リ許否ヲ決ス

第四十六條 遠洋漁業科ニ於テハ生徒ヲ本所實習船又ハ内國若ハ外國ノ漁船ニ乗組マシメ漁業航漁運用其他遠洋漁業ニ必要ナル技術ヲ練習セシム

但シ時宜ニヨリ時間ヲ定メ本所ニ於テ必要ナル技術ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第四十七條 外國ノ船舶ニ乗組マシムルモノ又ハ特ニ練習ヲ要スルモノニ就テハ其ノ修業年限ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十八條 特別ノ技能アル者ニ關スル修業年限及練習ノ方法ハ必要ニ應シ隨時之ヲ定ム

第四十九條 疾病其ノ他止ヲ得サル事由ニ因リ修業ニ堪ヘ難キ者ニ對シテハ期間ヲ定メテ休學ヲ命スルコトアルベシ休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第五十條 乘船實習中ハ毎月乘船月表ヲ調製シ船長ノ認印ヲ受ケ寄港ノ際之ヲ本所長ニ差出スヘシ

第五十一條 乘船實習中ハ漁撈日誌ヲ調製シ毎日ノ觀測操業漁況其ノ他必要ノ事項ヲ記入シ船長ノ認印ヲ受ケ實習終了ノ後之ヲ本所長ニ差出スヘシ

但シ實習中ト雖モ檢閲ノ必要アルトキハ其ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第五十二條 下船中練習セシム可キ事項ハ隨時之ヲ定ム

第五十三條 修業ヲ完了シタルトキハ乘船月表漁撈日誌及成績ヲ考查シ證明書ヲ

交付スヘシ但シ必要ニ應シ特ニ試業ヲ行フコトアルヘシ

第五十四條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外本科規定ヲ準用ス

第四章 研究科規程

第五十五條 研究科生徒ハ本科卒業生ノ志願者ヨリ之ヲ撰拔ス

第五十六條 入學志願者ハ學年ノ始ニ於テ第二號書式ニ依リ願書ヲ差出シ許可ヲ

受クヘシ

第五十七條 學術特ニ優等ナル研究生ニハ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第五十八條 研究生ハ教官ノ指導ヲ受ケ研究ニ從事スルモノトス

第五十九條 必要アルトキハ本所外適當ノ場所ニ於テ研究ニ從事セシムルコトアルヘシ

ルヘシ

第六十條 研究ヲ結了シタルトキハ研究事項ニ付キ論文ヲ提出スヘシ

第六十一條 論文ヲ考查シ相當ノ資格アリト認ムルトキハ證明書ヲ授與ス

第六十二條 學資ノ補給ヲ受クルモノニシテ放所ニ處セラレ又ハ自己ノ便宜ニヨ

リ中途廢學シタルトキハ支給シタル學資ノ全部又ハ一部ヲ返納セシム

第六十三條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外ハ本科規程ヲ準用ス

第五章 現業科規程

第六十四條 入學者ハ二箇年以上水産ノ實業ニ從事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシ

テ年齢滿二十歳以上三十歳以下ノモノタルコトヲ要ス

第六十五條 入學志願者ハ本所規程第十八條ニ準シ出願シ第五號書式ノ體格檢査

書ヲ其ノ願書ニ添付スヘシ

第六十六條 入學志願者ノ員數ガ定員ニ超過スルトキハ其經歷ト地方ノ狀況ニヨ

リ許否ヲ決ス

第六十七條 實技ヲ習得セリト認メタルモノニハ修業期ノ終リニ於テ之ニ修業證

書ヲ授與ス

三十八

第六十八條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外ハ本科規程ニ準用ス

書式

第一號書式(用紙美濃紙)

入學願書

私備御所本科何々科(現業科)へ入學何々専修志願ニ付御試業ノ上(現業科ニハ御試業ノ上ヲ省ク)御許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍族家業

某男子弟等

何 某 印

何年何月何日生

宿所(東京云々)

水産講習所長某殿

第二號書式(用紙美濃紙)

入學願書

一何 々(研究ノ事項)

私儀何年何月御所何科卒業致候處尙前記ノ事項ニ就キ何年間在所研究致度候間御詮議ノ上入學許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍族家業

某男子弟等

何 某 印

何年何月何日生

宿所(東京云々)

水産講習所長某殿

第三號書式(用紙美濃紙)

履歷書

學業

一何年月日何地官公私立何學校ニ入り何學科何學年級修業或ハ全科卒業

一何年月日何地何某ニ從ヒ何年間何學修業用書何々(卒業證書ヲ有スル者ハ其

水産講習所傳習規則

三十九

寫及學校長ノ證明書ヲ添へ實業ニ從事シタルモノハ其經歷ヲモ記入スヘシ
賞 罰

一何年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ケタル事
右之通相違無之候也

年 月 日

何 某 印

第四號書式(用紙美濃紙)

(印紙貼用)

在 學 證 書

私儀今般何々科へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク遵守シ專心勉勵卒
業ニ至ル迄猥リニ退學等致ス間敷候仍テ在學證書如件

本籍族家業

某男子弟等

何 某 印

年 月 日

何年何月何日生

宿所(東京云々)

右某今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守ラセ且本人ニ係ル一切
ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申ハ勿論御所御趣意ノ旨ヲ體シ平素督勵可致候仍
テ保證如斯候也

族籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

宿所

族籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

宿所

水産講習所長某殿

前書保證人某ハ當區公民ニ相違無之候也

水産講習所傳習規程

第五號書式(用紙美濃紙)

驗格検査書

何 區 長 印

族籍某男子弟等

何 某

何年何月何日生

- 一體 格 (甲、乙、丙 最^甲強健ナルモノヲ甲トシ之ニ亞クモ^乙ノヲ乙トシ現ニ疾患ナキ^丙身^丙體^丙薄^丙弱ナル者若ハ著シキ病歴ヲ有スルモノヲ丙トス)
- 一體 質 (強健、稍弱、弱、特別ナル事項ハ其條件ヲ記ス)
- 一身 長 (何尺寸分)
- 一體 重 (何貫忽)
- 一胸 圍 (何尺寸分)常時、充盈、空虛、及其差
- 一肺 活 量 (何千何百立方センチメートル)
- 一視 力 (何々)スネルレン氏ノ檢視法ニ依リ左右共其中心視力ヲ檢シ辨色力眼疾ヲモ検査スヘシ

(尋常、過敏、遲鈍) 左右兩耳ニ就キ價中時計ニテ可及的其聽取ノ最遠距離ヲ測定シセンチメートルニテ記入シ尙障害ノ有無及耳疾ヲモ検査スベシ

- 一聽 力
- 一神 經 系
- 一呼 吸 器
- 一血 行 器
- 一皮 膚 其 他
- 一脊 柱
- 一齒 牙
- 一痘
- 一己往現在ノ疾病又ハ畸形

年 月 日

公立病院醫(病院ナキ地方ハ内務省免許醫

何 某 印

四、製鹽技術員養成科規程

第一條 本科ハ製鹽ノ技術者タルヘキモノヲ養成ス

水産講習所傳習規程 製鹽技術員養成科規程

第二條 本科ノ修業ハ六箇月ヲ以テ期限トシ其學科課程左ノ如シ

四十四

科目	學期	週時	自九月二十一日	週時	自九月二十一日	週時	自十一月十五日
			至九月二十日		至十月三十日		至三月十五日
化學	分析及鑑査法	不定	氣象學大意	不定	製氣鹽法	二〇四	定性法、定量法、
物理學及氣象學	鹽法	不定	製鹽法大意	製氣鹽法	製鹽法	四	物理學、氣象學
製鹽法	鹽法	不定		製氣鹽法	製鹽法	四	物理學、氣象學
實法	製鹽法	不定		製氣鹽法	製鹽法	一四	物理學、氣象學
實習	製鹽法	不定		製氣鹽法	製鹽法	一四	物理學、氣象學

本表ノ外必要ト認メタル學科ノ講習ヲナスコトアルヘシ

第三條 入學志願者ハ左ノ資格ヲ有シ年齡滿二十年以上三十五年以下ニシテ當該學校長ノ證明アルモノハ試験ヲ要セス入學ヲ許可ス

- 但入學志願者定員ヲ超過シタルトキハ第一號ノ外撰拔試験ニヨリテ採用ス
- 一、本所本科卒業又ハ水産傳習所卒業ノ者
 - 二、府縣立中學校ト同等以上ノ認定アル水産學校及農學校卒業ノ者又ハ府縣立中學校卒業ノ者

第四條 撰拔試験ノ科目ハ隨時之ヲ定ム

第五條 入學志願者ハ本所規定ノ書式ニ準シタル入學願書ハ履歷書及體格検査書ヲ添ヘ東京ニアリテハ直接本所ニ其他ハ地方廳ヲ經テ差出スヘシ

第六條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ保證人ヲ定メ規定ノ書式ニヨリ在學證書明ヲ差出スヘシ

第七條 學業及實習ノ試業ハ在學中隨時ニ之ヲ行ヒ其成績ニヨリテ及落ヲ判定ス

第八條 前條ニ定メタル試業ニ及第シタルモノニハ修業證書ヲ授與ス

第九條 本則ニ掲記ナキ事項ハ本所傳習規程ヲ準用ス

五、實習規程

- 第一條 實習ハ本所及ヒ實習場實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ實習ニ從事セシム
- 第二條 實習ノ事項及期限ハ實習課程ニ準據シ之ヲ定ム
- 第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其往復ノ旅費ヲ支給ス
但遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス

實習規程

四十五

第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クヘシ

第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム

第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ

第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ出スヘシ

但遠洋漁業科生徒ニ在リテハ水産講習所傳習規程第五十條及第五十一條ニ依ル

第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ス

六、生徒心得

第一條 本所々定ノ條規ニ準據シ生徒ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アル可カラス

第二條 本所ノ制服及制帽ハ入學後一ヶ月以内ニ於テ調製シ之ヲ着用スヘシ

第三條 事故ニ依リ制服又ハ制帽ヲ着用スルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ時

日ヲ限リ寄宿生ハ生徒取締通學生ハ保證人連署ヲ以テ願出許可ヲ受クヘシ

第四條 控所ノ外疊舍内ニ於テハ喫煙スヘカラス

第五條 通學生ハ許可ナクシテ寄宿舎ニ出入スヘカラス

第六條 告示ハ掲出ノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムヘキカ故ニ常ニ掲ニ示

注意スヘシ

第七條 學術研究又ハ實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ出發歸所共ニ届出ヘシ

七、寄宿舎規程

第一條 寄宿生ハ生徒取締ノ監督ヲ受クヘシ

第二條 寄宿生ハ規律衛生等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ

第三條 寄宿舎ハ毎年九月十日ニ開キ翌年七月十一日ニ閉ツ

第四條 毎朝夕所定ノ時限或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ

第五條 寄宿生ハ左ノ時限ノ外ハ外出スルヲ許サス

一 平日ハ終業時後午後九時迄土曜日ハ午後十時迄

二 休業日ハ午前點檢後ヨリ午後十時迄

寄宿舎規程

但時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第六條 外泊又ハ時限内ニ歸舍シ難キ事情アルモノハ豫メ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ

但至急ヲ要スル場合ハ口頭又ハ書面ヲ以テ生徒取締ノ許可ヲ得後本條ノ手續ヲナスヘシ

第七條 許可ナク歸舍ノ時限ニ後レ又ハ外泊シタルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ其處分ヲ待ツヘシ

第八條 入舍又ハ退舍セントスルモノハ規定ノ用紙ニ認メ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第九條 管理上ノ便宜ニヨリ寄宿生ヲ數部ニ分チ各部ニ部長副部長各一人ヲ置キ寄宿舎生徒取締ノ指揮ニ從ヒ部内一般ノ取締ニ任ス

第十條 物品ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其ノ情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム

第十一條 寄宿舎食費等ハ毎月五日迄ニ生徒取締ノ檢證ヲ經テ支拂フヘシ期日ヲ

經過スルモ拂入レサルトキハ其情狀ニヨリ退舍ヲ命ス

第十二條 外來人トノ面會ハ應接所ニ於テスヘシ

第十三條 舍内ニ於テハ和服ヲ用ウルコトヲ得

八、圖書保管及ヒ借覽規程

一 圖書保管規程

第一條 本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 圖書ハ各部門ニ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ

第三條 圖書原簿ヲ製シ之レニ書名編著者名部門番號冊數ヲ記載スヘシ

第四條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ

第五條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之レカ點檢ヲ爲スヘシ

第六條 點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ

第七條 寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ

第八條 雜誌及報告書類ニシテ保存ヲ要スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ

第九條 各部科掛ニ平常備へ置クヘキ圖書ハ部長又ハ主任ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

但シ圖書掛ニ借用證書ヲ差出スヘシ

第十條 前條備付ノ圖書ハ時々圖書取扱主任ノ點檢ヲ受クヘシ

第十一條 圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務掛ヘ引繼キ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 他官廳ヨリ借入タル圖書ハ圖書掛ニ保管シ職員ニ貸付スル場合ハ圖書借覽規程ニ從フ

二圖書借覽規程

第一條 圖書ハ本所職員及囑托員ニ限り借覽ヲ許ス

但シ職員囑托員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム

第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名部門番號冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺

印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル既定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ

第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承諾及檢閱ヲ受クヘシ

第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六ヶ月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得

第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス
但シ特ニ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限りニアラス

第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部科掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第七條 貴重ノ圖書辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サス
但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 他廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許否ヲ定ムヘシ

第九條 他廳ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上

借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻スヘシ

第十一條 借用ノ圖書ヲ汚損又ハ粉失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ

以テ償ハシメ若ハ相當代價ヲ辨價セシムルコトアルヘシ

第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果タサ、ル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

第三節 實習

一、本所實習

第二學年ニ於ケル實習ハ漁撈科ニ於テハ網具及釣具ノ構成、漁船、ボート運用等、製造科ニ於テハ食用品、工用品、藥用品ノ製造、冷藏機ノ使用、並ニ冷藏方法、及定性、定量分析、養殖科ニ於テハ解剖及發生學實驗、海苔及具類養殖等ノ實習ヲナサシム

二、所外實習

第三學年ニ於テハ本所實習ノ外技術ヲ練磨セシムルタメ別ニ設ケタル實習場ニ於テ實習セシメタル科目左ノ如シ

(一) 漁撈科

假實習場 千葉縣下館山

實習船 隼丸

實習科目

一、網具 編揚繰網、棒受網等ノ製作並ニ製圖設計

一、釣具製作

一、漁船及「ボート」運用

一、網漁業 揚繰網漁業、流網漁業、刺網漁業、棒受網漁業、手繰網漁業、打瀬網漁業等

一、釣漁業 鮪、鯉、鯖、鰯、柔魚、鱈等ノ延繩及手釣漁業

又實習船隼丸及民間漁業船ニ於テ左ノ實習ヲナサシメタリ

航海術及漁船運用實習

捕鯨實習 (和歌山、三重兩縣沖合)

網漁業 巾着網及流網漁業(對島近海)

鮪流網漁業(茨城縣、千葉縣、神奈川縣沖合)

實習 所外實習

釣漁業 各種漁業(三重縣濱島並愛知縣豐濱地方)

一 氣象觀測

一 漁場調査

一 漁業經營

本所實習船快鷹丸ハ明治四十年九月九日韓國迎日灣ニ於テ難破シタルヲ以テ漁撈科第三學年生徒ノ實習ハ民間ノ漁業船ニ分乘實習セシメ又本所實習船隼丸竣工ノ後ハ主トシテ同船及東海漁業株式會社所屬第一、第三房總丸ニ分乘實習セシメタルモ尙ホ規定ノ卒業期內ニ於テハ豫定ノ實習ヲナサシムルコト能ハザリシヲ以テ其卒業ヲ明治四十一年十月マテ延期シ本所北水丸ヲ主トシ日本漁業株式會社ノ天鵬丸、大鵬丸、高鵬丸ニ於テ鱈漁業ヲ三重縣水産試驗場ノ朝熊丸ニ於テ鱈漁業ノ實習ニ從事セシム

(二) 製造科

實習場 神奈川縣下小田原町

實習科目

一 食品 (内地向及歐米向ノ罐詰並ニ煮乾素乾、鹽乾、鹽藏品及節類、燻製蒲鉾、酢漬品等)

一 肥料 (搾粕乾鰹、荒粕骨粉等)

一 工用品 (油、蠟、膠及其材料採集、魚皮類採集並ニ鞣革ノ製造等)

一 藥用品 (沃度、肝油類)

其他德島縣撫養地方ニ於テ製鹽ノ實習及調査、大坂府、三重、愛知縣下ニ於テ鰹油、漬罐詰ノ製造、實習、北海道石狩國厚田地方ニ於テ鯨鹽藏、燻製、鯉、鱈製造等ノ實習ヲナサシメタリ

一 製造事業經營

(三) 養殖科

實習場 東京市深川區冬木町(人造池ニ於ケル養殖)

千葉縣下八幡町(淺海ニ於ケル養殖)

實習科目

一 淡水養殖 (鮭、鱒、鮎、鯉、金魚、鰻、鱧等ノ養成)

實習 所外實習

一、鹹水養殖（鱈、牡蛎、海苔等ノ養成）

一、發生實驗、解剖實驗

其他廣島縣下及千葉縣下ニ於テ養蛎法、伏老、煙ノ養成法、淺草海苔ノ養殖並ニ浮游生物ノ研究、日光中宮嗣湖ニ於テ鱒人工孵化法、府下多摩川ニ於テ鮎人工孵化法、千葉縣下白濱村ニ於テ比目魚人工孵化法並ニ、搗布、和布ノ繁殖方法等ノ實地指導ヲナシ且東京附近ノ養魚場ニ就キ實地ノ視察調査ヲナサシメタリ

一、養殖事業經營

第三章 試驗部

第一節 職員

技師

部長

理學士 吉岡善太郎

農商務技師

兼 北原 多作

理學士

兼 伊谷以知二郎

兼 川合 角實

兼 下田 奎一

工學士

兼 岡田少三郎

農商務技師

教授

理學博士

兼 岡村金太郎

兼 崎田 弘

技手

兼 黑田九萬男

兼 田和 駒吉

職員

- 兼伊 笠 茂 松
- 兼越 田 德 次 郎
- 兼小 野 辰 次 郎
- 兼關 根 磯 吉
- 兼山 田 德 助
- 兼鍋 島 態 道
- 兼菊 地 健
- 兼九 川 久 俊
- 兼益 滿 行 綱
- 兼奧 津 興 美
- 兼鎌 田 武 造
- 兼野 元 俊 一

助教

兼木村 金太郎

書記

兼技手

大橋 元次郎

囑託

大藏技師

農學士 西村 寅三

工學士 市野 金一郎

高 島 信

谷 中 知 信

淺井 勝次郎

(在官者以外ハ就任願)

第二節 水産講習所試験規程

(明治四十一年二月改正)

第一條 試験ハ一般水産業ノ發達ヲ圖ル爲メ重要ナル漁業製造養殖ノ事業ニ付施

水産講習所試験規程

行スルモノトス

第二條 所長ハ毎年度ノ初ニ於テ委員ヲ指名シ試験部長ヲシテ之レト商議シ試験事項及試験擔當者ヲ定メシムルモノトス

第三條 試験擔當員ハ試験ニ着手ノ前之レカ施行順序ヲ擔任及試験部長ト協議スヘシ

第四條 地方水産試験場及水産講習所等ヨリ試験ノ依頼ヲ受ケタルトキハ主管ノ業務ニ妨ナキ限リ之ニ應スルコトヲ得

第五條 前條ノ依頼ニ應スル試験事項ハ當分左ノ各項ニ限ル

- 一、水産物ノ乾燥、冷蔵、罐詰等
 - 二、網絲釣絲ノ張力、伸長及撚度ノ檢定等
 - 三、餌料、水産肥料、食鹽、魚油、水質等ノ檢定
 - 四、水産物製造器械、漁具、漁船、養魚池、養魚器具等ノ設計
- 前項ノ外本所試験ノ業務ニ關係アリテ必要ト認ムル事項ハ之レニ應スルコトヲ得

第六條 試験擔當員ハ試験結了後六箇月以内ニ報告書ヲ編纂シ主任及試験部長ヲ經テ所長ヘ差出スヘシ

二箇年以上ニ涉ルモノハ毎年十二月二十日迄ニ施行シタル手續及其成績ヲ報告スヘシ

第七條 試験施行上必要ナル物品ノ購入人夫ノ備入及旅費ノ支出等ハ主任ヨリ部長ヲ經テ庶務課長ニ請求スヘシ

試験部ニ於テハ試験ニ要スル經費及旅費内譯簿ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

第三節 事業

本所試験部ハ明治四十一年二月其規程ヲ改メ業務ヲ擴張セリ今明治四十一年度ニ於テ實行中ノ試験及調査項目ヲ擧クレハ左ノ如シ

鯨流網漁業試験

從來鯨漁ハ産卵期ニ際シ沿岸ニ來游スルモノヲ建網ヲ用キテ捕獲スルニアルヲ以テ魚卵成熟シテ肉味不良食スルニ適セス依テ其産卵期前ニ於テ沖合ニテ漁獲セハ良質佳味ノモノヲ得ヘキ筈ナルヲ以テ北海道附近若クハ韓國東北沿海ニ於

テ沖合漁業ヲ試ミントス

六十二

鯖漁業及鹽藏試驗

韓海ニ於テハ鯖魚僥多ナルニモ係ワラス其漁業法未ダ完全ナラサル以テ之ヲ改良スルヲ目的トシ又米國向鹽漬鯖輸出試驗ハ既ニ兩三回試ミタル處ナルモ其輸出量ノ少額ナリシト其他ノ事由ニ依リ商品トシテ市場ノ評價ヲ得ルニ至ラザリキ依テ前試驗ニ鑑ミ稍ヤ多量ノ製品ヲ輸出試賣シ果シテ輸出ニ適スルヤ否ヤヲ確定セントス

歐洲向キ「アンチヨビー」製造試驗

「アンチヨビー」ハ歐米ニ於テ最モ貴重セラレ、ハ人ノ知ル處ニシテ而カモ本邦其原料タル鯉及鰻ニ富ムヲ以テ之ヲ「アンチヨビー」ニ製シ輸出ヲ試ミントス

眞空貯藏試驗

魚類其他ノモノヲ罐詰貯藏スルノ方法種々アリト雖モ各一得一失アルヲ免レス然ルニ最近發明ニ係ル眞空貯藏機械ヲ用ユレハ内容物ニ熱ヲ加ヘス單ニ空氣ヲ排除シタルノミニテ貯藏スルヲ得調味品ノ保存ニ利益尠ナカラサルヘキヲ以テ

本機械ヲ購入シ該法ノ試驗ヲ行ハントス

介甲應用試驗

歐洲ニ於テ貝殼應用裝飾品流行愛用セラル而シテ之カ原料ハ主トシテ本邦及南洋諸島ニ仰キ加工品ノ價ハ原料ニ比シ數十倍トス本邦此等材料最モ豊富ナルヲ以テ製作輸出ヲ試ミントス

牡蠣種改良及輸出試驗

牡蠣ハ歐米諸國ニ於テ最モ珍重スル食料品ノ一ニシテ從テ其價格甚タ高貴ナリ特ニ本邦ノ對岸ナル米國西海岸ニハ良質ノモノヲ産セス遠ク之ヲ東海岸ヨリ汽車ニテ輸送スルヲ以テ其價貴キヲ本邦ノ價格ニ十數倍ス依テ之カ輸出ヲ試ムルト同時ニ其品質ヲ改良シ其介形ヲ正シ以テ其需用ニ應スルノ道ヲ講セントス

淡鹹水魚蓄養試驗

魚族ノ稚兒ヲ蓄養シ適當ノ生洲又ハ池ニ收容シ肥大ナラシメ好時期ヲ俟テ販賣ヲ試ミ又一方ニ於テハ臺灣其他ノ地方ニ於テ多量ニ産シ其價モ極テ低廉ナルモノヲ飼育シ劣等ノモノヲ變シテ佳良ノモノヲラシメントス

事業

六十三

左記各試験ハ他日本試験ヲ施行スルノ豫備トシ又ハ特種ノ事情ノ爲メ必要ニ依リ本年度ニ於テ施行スルモノナリ

鯉漁業調査

各種漁業中鯉漁ハ最も重要ナルモノニシテ其漁區數十縣ニ亘リ而カモ其魚道産卵期産卵處等一モ知ル處ナキヲ以テ回游魚道其他ノ調査研究ヲ遂ケ該漁業ニ資セントス

網釣絲染料試験

從來二三ノ染料ヲ用ヒ網釣具保存ニ資セシカ未タ深ク學理的研究ヲ遂ケタルコトナシ依テ諸種ノ材料ニ就キ試験ヲ行ヒ最も有効ナルモノヲ撰擇セントス

漁業用鹽試驗

魚類ノ鹽藏ニ使用スヘキ食鹽ハ其成分ノ優劣ノミナラス粒狀ノ大小可溶度ノ遲速等ニ由テ甲魚ニ適スルモノ乙魚ニ適セサルコトアリ又同一魚類ニテモ其目的ニ由テ其撰ヲ異ニスヘキコトアリ故ニ魚ノ種類鹽藏ノ目的等ニ由テ相當ノ食鹽ヲ使用スヘキコトヲ試驗スヘシ

魚類寒天包藏試驗

寒天ヲ以テ魚類ヲ包メハ長時貯藏ニ耐フルコトハ本所ニ於テ既ニ實驗スル處ナルモ尙ホ進ンテ之カ完全ナル方法ヲ攻究セントス

製革試驗

海獸並魚類ノ皮革ハ貴重サル、モノ尠ナカラスト雖モ僅ニ數種ノ海獸ニ止マルハ遺憾ナルカ故ニ周ク海獸魚類ノ皮革ヲ應用スルヲ目的トシ先ツ鯨皮其他ノ製革ヲ試ミニントス

膠製造試驗

魚膠製造ニ就テハ既ニ數種ノ材料ヲ用ヒ試験ヲ行ヒ良品ヲ得タルニ付更ニ經濟的試験ヲ爲サントス

阿利布油檢定試驗

從來本邦罐詰業者ノ使用スル阿利布油中ニハ品質劣等性々他油ヲ混スルモノアリ從テ製品良好ナラス依テ諸種ノ阿利布油ニ就キ其純不純ヲ檢シ一定ノ良油檢定法ヲ定メ偽和物ノ檢出ニ便セントス

内海常棲及移動魚類調査

内海魚族ノ減少ハ一般ニ認めル處ニシテ之カ蕃殖保護ヲ計ルハ急務ナリト雖モ未タ其習性移動等ニ就キ知ル處ナキヲ以テ之カ蕃殖保護ヲ計ルニ道ナシ依テ先ツ此等ノ魚族ニ就キ其産卵期産卵場並ニ移動等ヲ查究シ以テ内海魚族ノ蕃殖ヲ計ルノ階梯タラシメントス

右數試験ノ外前年度來試験ヲナシ來リ未タ其事業ノ結了セサルモノハ引續キ之カ試験ニ從事スルモノ尠ナカラス海藻類蕃殖ノ如キ節類製造法ノ如キ鱈肝油製造新法ノ如キ皆然リ又機ニ臨ミ時ニ應シテ試験若クハ調査セシモノアレトモ此等ハ特ニ茲ニ掲ケス又他ノ依頼ニ由テ試験セルモノアリ鐵道廳ノ依頼ニ應シテ參與施行セル鮮魚冷蔵運搬ノ試験ノ如キ是ナリ

其他各地方水産試験場又ハ當業者ノ質問ニ應答シ鑑定ノ依頼ヲ受ケ分析又ハ試製等ヲナセリ

第四章 本所敷地並建物

明治三十年創設ノ當時ニ於テハ舊水産傳習所ノ建物ヲ充用シタリシモ狹隘ニシテ完全ノ設備ヲナスコトヲ得ス依テ明治三十二年其新營ヲ計畫シ位置ヲ海邊ニ撰ムノ必要アルヲ以テ地ヲ東京市深川區越中島ニトシ同年四月新營ニ着手セシモ土地埋立ノ爲メ工事ノ進捗甚タ遅ク翌三十五年三月即チ滿四年ニシテ完成セリ敷地面積ハ一萬四百三十二坪餘ニシテ内繋船場壹千九百貳坪餘アリ家屋ノ總坪數ハ貳千五百九十五坪餘ニシテ教室寄宿舎其他ノ配置實驗室實習場ニ於ケル設備ハ大要左ノ如シ

一、 齋 舎

本所ノ建築ハ勉メテ外形ノ修飾ヲ避ケ實用ト堅牢トニ重キヲ置キ通風採光ニ留意セシハ勿論教室ノ配置教具及實驗並ニ實習器具機械ノ排列等ニ於テモ事業ノ状態ト教育及ヒ衛生上ノ論理トニ基キ之ヲ計營セリ

本館ハ二階建ニシテ教室事務室講堂ノ三ヨリ成リ教室ハ一室能ク六十八ヲ容ル、

コトヲ得其數十四室アリ其他物理化學ノ特別教室ヲ設ケ又其一部ヲ標本室圖書室、
準基機械室等ニ充テ別ニ土中室二ヶ所ヲ有ス講堂ハ面積七十七坪ニシテ 聖影奉
揭ノ裝置ヲナス又各室ニハ暖房放熱器ヲ備ヘ冬季ト雖モ常ニ一定ノ溫度ヲ保タシ
ムルノ裝置トナス

中央ノ一棟ハ平家造ニシテ實驗室ニ充ツ其半部ハ養殖並ニ細菌學ニ關スル實驗及
實習ニ供シ他ノ半部ハ製造化學分析化學及化學實驗室トシ各瓦斯水道水ヲ引用シ
テ其作業ニ便ナラシム

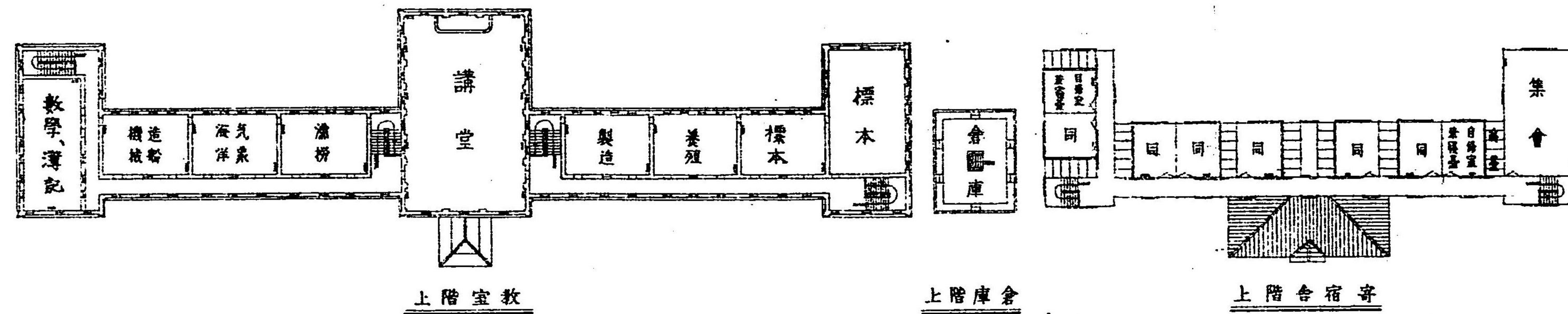
實習場ハ平家造ニシテ漁撈製造ノ二ニ分チ其一部ヲ漁撈實習室ニ充テ網具釣具船
具等ノ設計製作修補ノ場所トナシ他ノ一部ヲ製造ノ實習室トシ沃度製鹽油蠟罐詰
及汽罐室トシ煮熟煎熬等溫熱ヲ要スルモノハ汽罐中ノ蒸氣ノ供給ニヨリ動力ヲ要
スルモノハ汽關室ニ於テ發生セシムル電氣ヲ用ヒ又瓦斯水道水ノ供給ニヨリテ其
作業ニ便ナラシム又別ニ第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷藏庫ヲ移築シテ魚肉冷
藏ノ方法ヲ實習セシムル所トス

寄宿舎ハ二階建ニシテ自修室ト寢室トヲ兼ネ室ノ一部ヲ自修ニ他ノ一部ヲ寢臺ニ

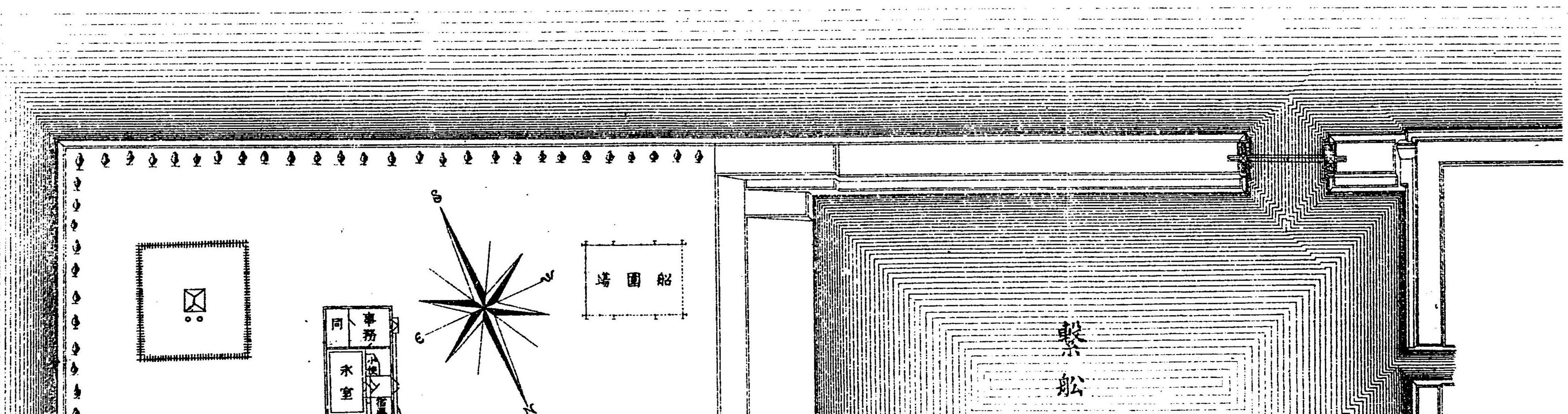
水產講習所

本所

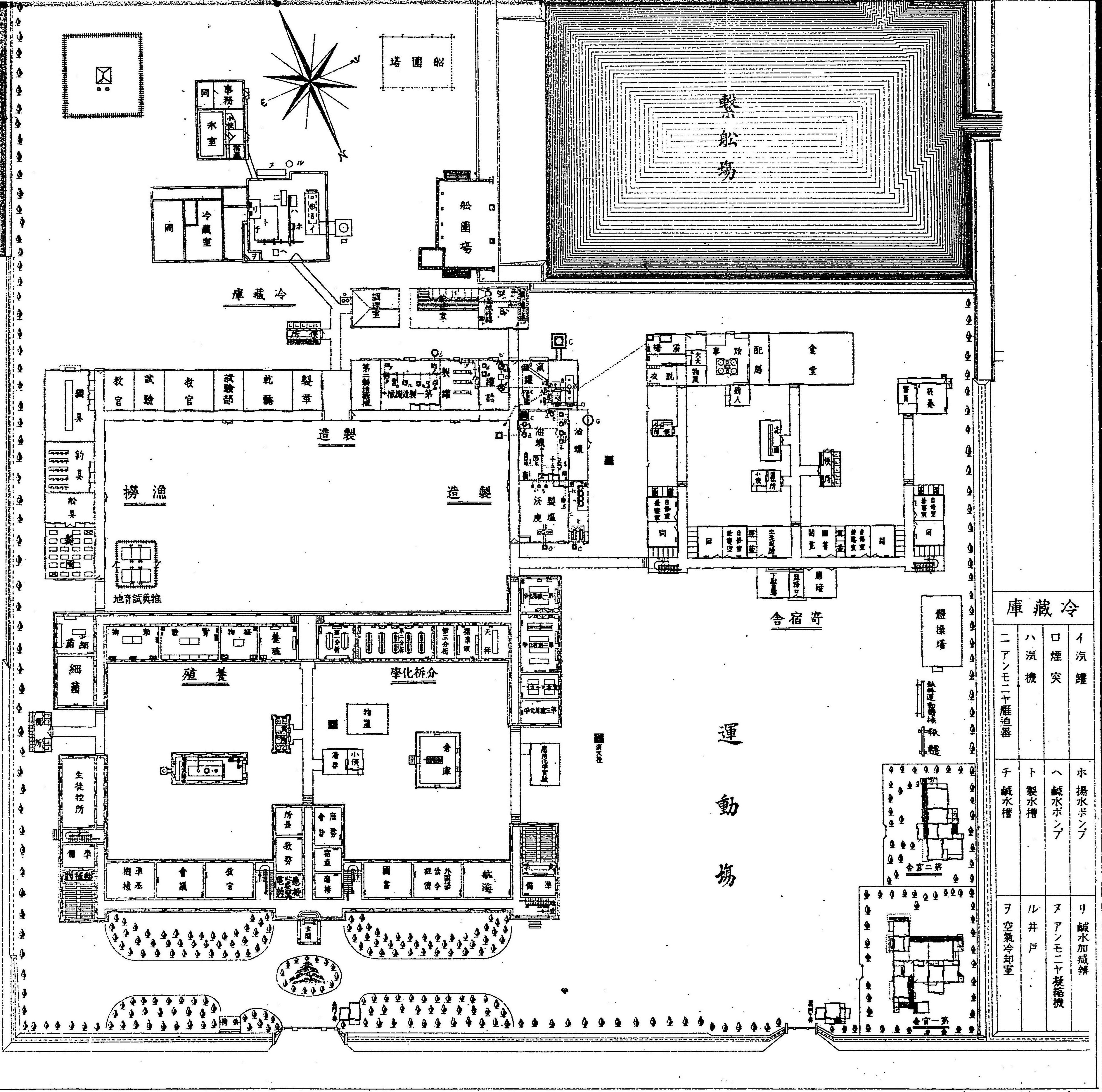
縮八尺百分之壹



構内	壹万四百三拾二坪五
内繁餘場	壹千九百七拾二坪三
總坪	貳千五百九拾五坪五



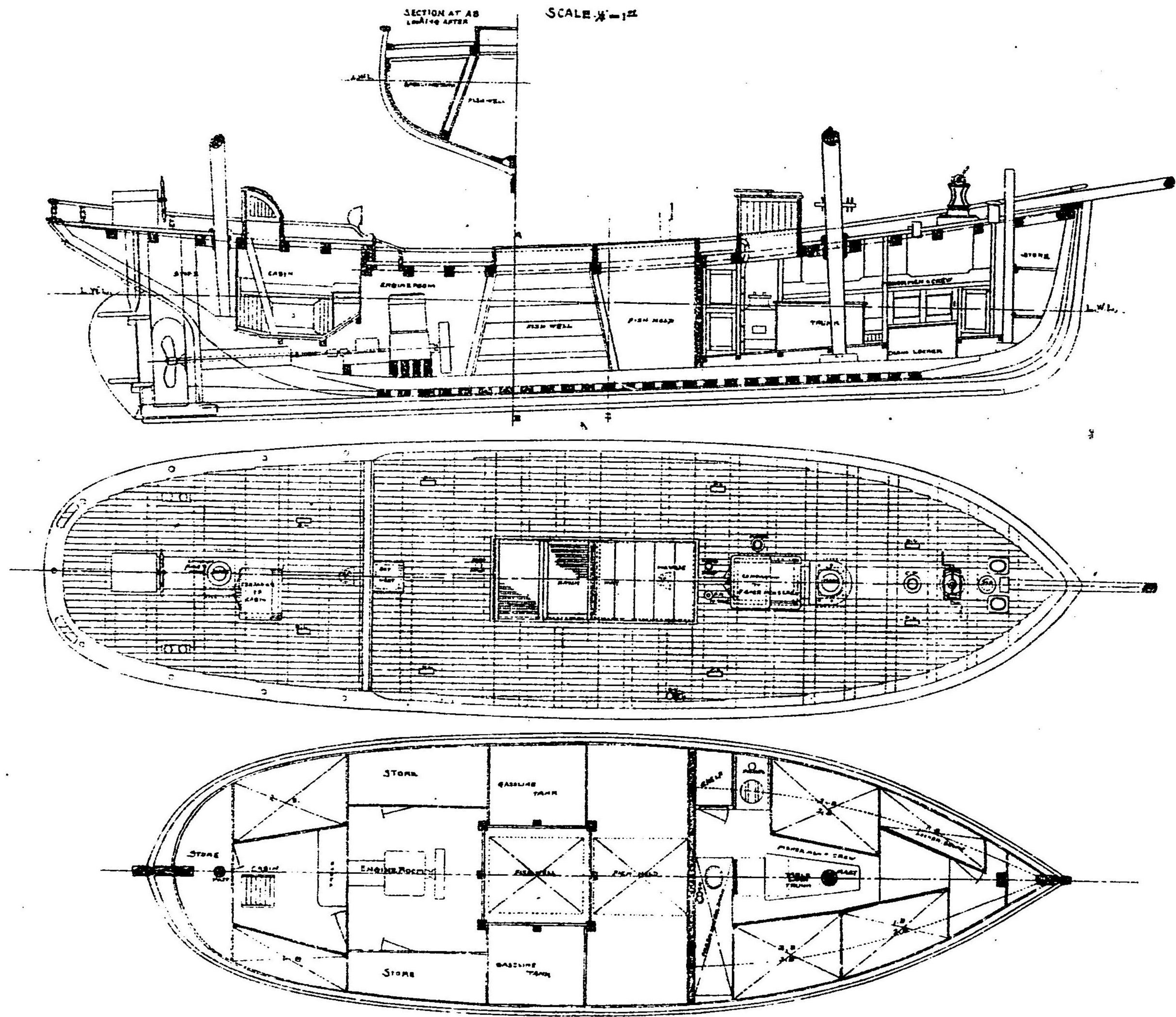
K J I H G F E D C B A
 第一工場
 第二工場
 第三工場
 第四工場
 第五工場
 第六工場
 第七工場
 第八工場
 第九工場
 第十工場
 第十一工場
 第十二工場
 第十三工場
 第十四工場
 第十五工場
 第十六工場
 第十七工場
 第十八工場
 第十九工場
 第二十工場
 第二十一工場
 第二十二工場
 第二十三工場
 第二十四工場
 第二十五工場
 第二十六工場
 第二十七工場
 第二十八工場
 第二十九工場
 第三十工場
 第三十一工場
 第三十二工場
 第三十三工場
 第三十四工場
 第三十五工場
 第三十六工場
 第三十七工場
 第三十八工場
 第三十九工場
 第四十工場
 第四十一工場
 第四十二工場
 第四十三工場
 第四十四工場
 第四十五工場
 第四十六工場
 第四十七工場
 第四十八工場
 第四十九工場
 第五十工場
 第五十一工場
 第五十二工場
 第五十三工場
 第五十四工場
 第五十五工場
 第五十六工場
 第五十七工場
 第五十八工場
 第五十九工場
 第六十工場
 第六十一工場
 第六十二工場
 第六十三工場
 第六十四工場
 第六十五工場
 第六十六工場
 第六十七工場
 第六十八工場
 第六十九工場
 第七十工場
 第七十一工場
 第七十二工場
 第七十三工場
 第七十四工場
 第七十五工場
 第七十六工場
 第七十七工場
 第七十八工場
 第七十九工場
 第八十工場
 第八十一工場
 第八十二工場
 第八十三工場
 第八十四工場
 第八十五工場
 第八十六工場
 第八十七工場
 第八十八工場
 第八十九工場
 第九十工場
 第九十一工場
 第九十二工場
 第九十三工場
 第九十四工場
 第九十五工場
 第九十六工場
 第九十七工場
 第九十八工場
 第九十九工場
 第一百工場



冷蔵庫			
イ 汽罐	ホ 揚水ポンプ	リ 鹹水加減機	
ロ 煙突	ヘ 鹹水ポンプ	ヌ アンモニヤ凝縮機	
ハ 汽機	ト 製水槽	ル 井戸	
ニ アンモニヤ凝縮器	チ 鹹水槽	ヲ 空気が却室	

充ツ寢臺ハ床面上二尺五寸ノ高サニシテ上ニ藁布圍ヲ敷キ下ヲ用具入トシテ前面
ニ戸ヲ設ケ各自鍵ヲ用ヒテ閉鎖スルコトヲ得セシム又自修ノ爲メニハ中央ニ二人
向合ノ卓子三個ヲ併列シ其側面ニ書籍ヲ容ル可キ棚ヲ設ケ一室六人ヲ定員トス外
ニ一ノ會堂ヲ設ケ生徒ノ集會ニ便ニシ又學友會圖書室ヲ本舍内ニ設ク各室ニ暖房
及ヒ電燈ヲ配置シ水道水ヲ引用ス其他攝養室小使室洗面所食堂浴室等ヲ設ク浴室
ニハ汽罐ヨリ蒸氣ヲ引用シテ日中作業ニ使用セシ蒸氣ノ餘熱ヲ供給セリ
繫船場ハ敷地ノ一隅ヲ區劃シ水開ヲ設ケテ外海トノ交通ヲ遮リ練習用ノ端艇及漁
艇ヲ繫留スル所トナス
運動場ハ寄宿舎ノ前面一千五百七十五坪餘ノ面積ヲ以テ之ニ充テ砂礫ヲ以テ地盛
ヲナシ雨水ノ溜滯スルコトナカラシム場内ニハ鞆繩震動橫木鐵棒高手摺等ヲ設ケ
テ本所學生ニ必要ナル特殊ノ運動ヲナサシム
暖房ハ米國「ウエブスター」式ヲ採用シ各室ニ設備セル放熱機ニヨリテ室内ヲ暖メ「ボ
ンブ」ノ作用ニヨリテ凝結水ヲ回收スルノ趣向トシニケ所ノ汽罐ニヨリ一ハ教室及
實驗室等主トシテ晝間使用スル場所ニ溫熱ヲ供給シ其汽罐室ヲ本館ノ中央ニ設ク

丸隼船習實



船體	總噸數
深	貳拾八噸
幅	拾貳呎
長	拾伍呎
六呎	八呎
〇呎	七呎
五	五

一、實習ニ關スル設備

本所ハ其業態ニ依リ東京ニ於テノミ實習セシムヘカラサルモノ多キヲ以テ各科其目的ノ異ナルニ從ヒ特殊ノ設備ヲナセリ

(一) 漁撈科

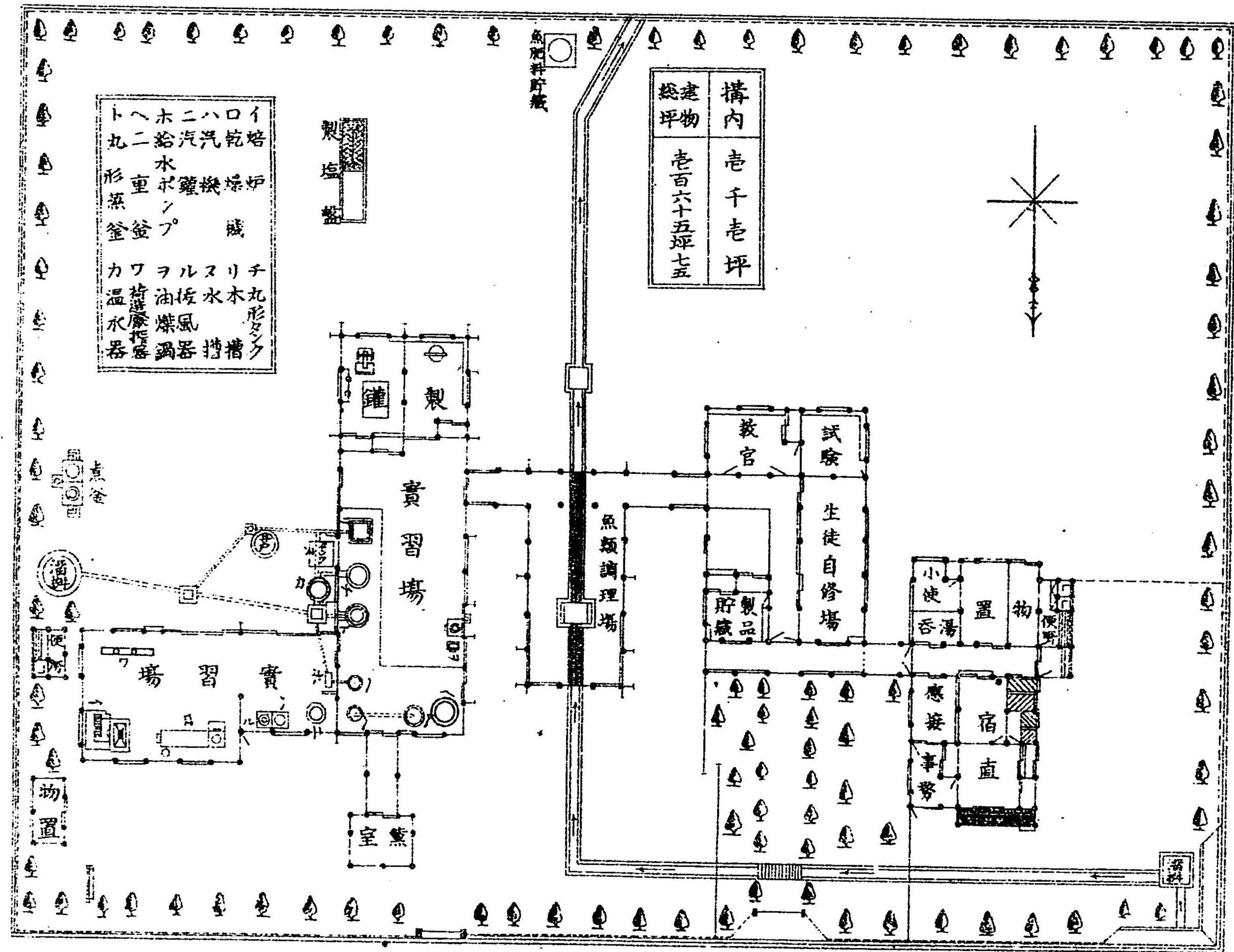
一ハ夜間使用スル寄宿舎ニ供給スルモノニシテ晝間ノ實習ニ使用シタル蒸氣ノ餘力ヲ以テ之ヲ供給ス
 電燈及ヒ原動力ハ製造ノ作業ニ要スル蒸氣殺菌溫熱ノ供給及暖房等ノ爲メ使用セ
 ル汽罐ノ蒸氣ニヨリテ同一ノ汽罐室ニ備ヘタル發電機ヲ回轉シ又更ニ蓄電池ヲ設
 ケテ常ニ剩餘ノ電氣ヲ蓄ヘ置キ以テ寄宿舎及其他ノ點燈ニ供シ又機械運轉ノ原動
 力トシテ隨所ニ其動力ヲ應用シ又將來電氣ノ作用ニヨリテ成功スヘキ漂白分解等
 ノ事業ニモ應用センコトヲ期ス故ニ蒸氣及ヒ電氣ハ極メテ經濟的ニ之ヲ使用セリ
 構内ノ植樹ハ其場所ニ依リ風防火防日除波除等ノ目的ヲ以テ最モ海風ニ堪ユルモ
 ノ又ハ堤防ノ堅固ヲ補クルモノ等ヲ撰ビタリ故ニ一樹一卉ト雖モ苟モ植ヘタルモ
 ノナシ

實習船隼丸

本船ハ本所生徒實習ノ用ニ供センカ爲メ東京石川島造船所ニ於テ建造セシ「ゲッチ」型帆船ニシテ長五十二呎七五幅十三呎八五深六呎〇五總噸數二十八噸アリ補助機關トシテ實馬力約二十五ノ「グロープ」式「ギャソリン」發動機ヲ据エ附ケタリ機關ノミヲ使用スルトキハ速力約六哩ヲ出スベク船内ノ配置ハ船員室ヲ後部ニ設ケ其前部ヲ區劃シテ機關室ト爲シ之ニ隣リテ活魚槽アリ兩舷ニ四箇ノ通水孔ヲ設ケ活餌貯藏ノ際海水ノ循環ヲ計リ活魚槽及ヒ機關室間ノ仕切板ヲ二重トナシ其間ニ木炭ノ粉末ヲ填充シテ防熱裝置ヲナシ活魚槽ノ兩側ニハ其部分ノ形ニ適應セル鐵製「タンク」ヲ設ケ之ヲ「ギャソリン」槽トナシ必要ナル諸管ヲ以テ機關ニ給油スルモノトス活魚槽ノ前部ハ魚艙ニシテ漁獲物ヲ收ムル所トス之ヨリ船首ハ生徒水夫及漁夫ノ寢室ニシテ寢臺及物入等ヲ設備ス

蓋シ本船ハ此種漁船ノ模範トナルヘキモノナルヲ以テ材料ヲ精撰シ嚴重ナル監督ノ下ニ施工セルヲ以テ船體ハ堅牢ニシテ能ク遠洋ノ狂瀾怒濤ニ堪ユヘク船型及設備ハ從來建造セラレタルモノニ就キ長ヲ採リ短ヲ棄テ專ラ操業ノ利便ヲ圖レリ例

小田原製造實習場



セハ船幅ヲ比較的大ニシ同時ニ「ボンチ」層約九噸ヲ船底ニ積載シテ復原力ヲ増大セ
ルカ如キ船首ノ「シャ」ヲ大ニシテ浪乗ヲ能クシ中央部ヨリ船尾ハ出來得ル限り舷
ヲ低クシ炊事室ヲ甲板下ニ設ケ甲板上ヲ成ルヘク廣濶ニシテ作業ニ便ナラシメタ
本船ハ小形漁業用船ノ必要ヲ認メ明治四十年四月其建造ニ着手シ同年四月其工ヲ
竣ヘタルモノニシテ爾來漁撈科ノ生徒ヲ搭乘シテ實習ニ從事セシメ千葉縣安房郡
館山ヲ定繫港トナシ陸上ニハ漁撈假實習場ヲ設ケ一般ノ漁具船具等ヲ備ヘ氣象觀
測漁具船具等ノ製作設計及ヒ修理等ノ實習ヲナサシム

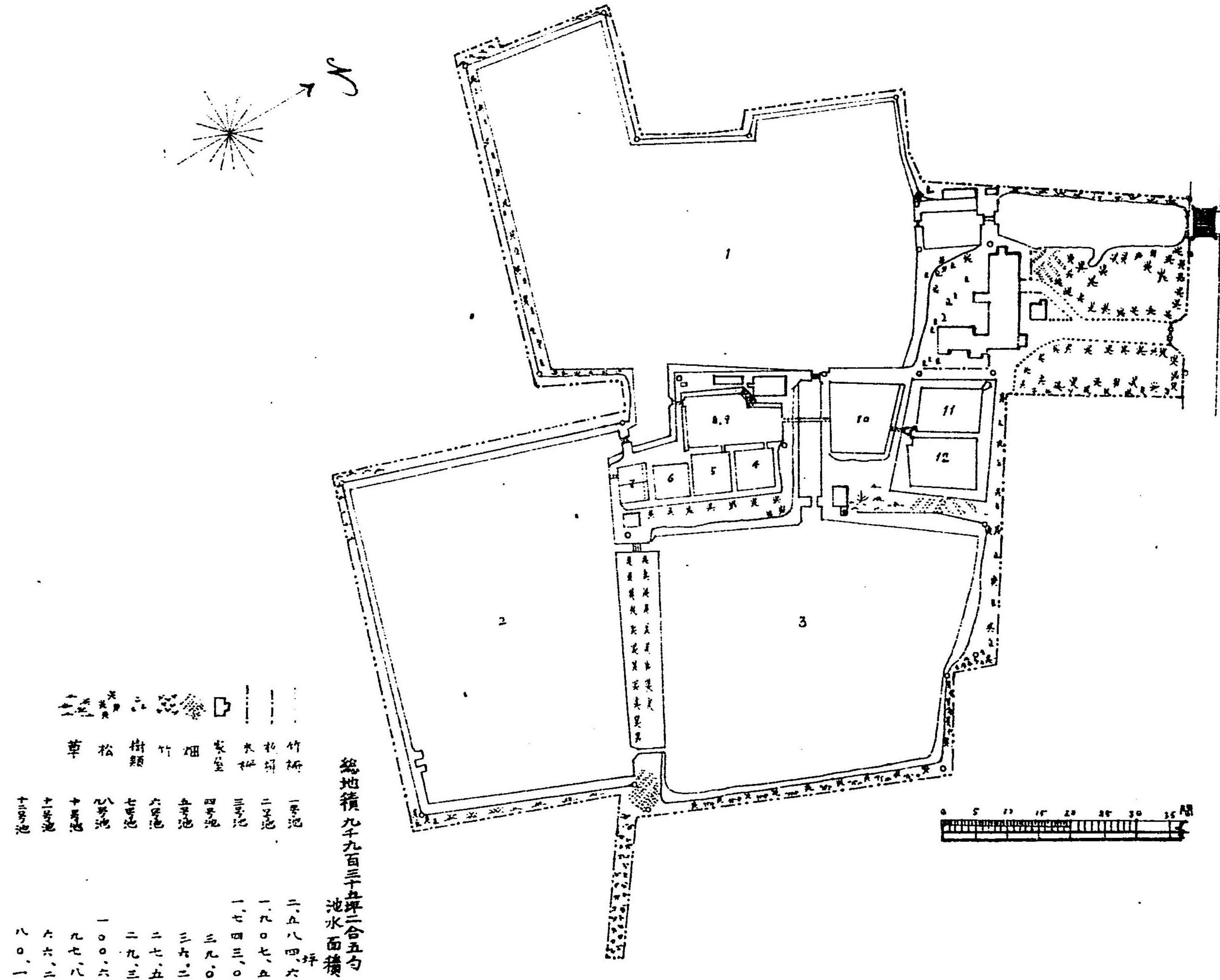
(二) 製造科

製造科ニ於テハ本所ニ於テ製造化學細菌學等ト相俟テ學理上ノ教授ヲナスト雖モ
東京ニ於テハ魚價不廉ナルノミナラス適當ナル製造原料ヲ得ルコト能ハサルヲ以
テ技術ヲ熟練セシムル爲メ他ニ現業ノ實習場ヲ設ク

小田原製造實習場

小田原製造實習場ハ神奈川縣下小田原町ニ設ケ一定ノ期間學生ヲ同所ニ出張セシ

深川養魚試驗池



メテ技術練習ノ傍ラ自ラ經濟ノ途ニ當リ或ハ事業設計ノ任ニ當ラシメ又其設備ノ程度モ民間現時ノ度合ニ適合セシメンコトヲ圖リ機械ノ動力ハ手働ヲ主トシ汽力ハ一個ノ堅立汽罐ヲ備フ又水ノ供給ハ製造事業ニ必用ナルヲ以テ構内ニ流水ヲ引キ魚類其他ノ洗滌ニ便セリ本場ハ明治三十四年四月起工シ同年八月竣工セリ

(三) 養殖科

養殖科ニ於テハ各種水族ノ性質各相異ナルヲ以テ一ノ實習場ヲ以テ足レトスルコト能ハス故ニ本所ニ於テハ各實習場ニテ採集シタル材料ヲ用ヒテ教授ヲナスヲ主眼トシ尙ホ各實習場ニ於テ實地ノ研究技術ノ練習ヲナサシム

實習場

淡水養殖ニハ東京市深川區冬木町深川養魚實習試驗地ニ於テ鯉、鰻、鰻及龍等ヲ府下北多摩郡宮澤假實習場ニ於テ鮎ヲ栃木縣日光中宮祠湖ニ於テ鱒ノ養殖ニ就キ實習セシメ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ北海道新潟縣下等ノ地方ニ派遣セシムルコトアリ

深川養魚試驗地

實習ニ關スル設備 養殖科

深川養魚試驗地ハ素農商務省山林局貯木所ヲ更改シテ養魚池トナシタルモノニシテ總地積九千九百卅五坪二合七勺アリ從來ハ大日本水産會ニ於テ其經營ヲナサシメ本所生徒實習ノ用ニ供シタリシカ本年度ヨリ全ク之ヲ本所ノ經營ニ屬セシメ淡水魚族養成ノ試驗ヲ兼テ生徒實習ノ用ニ供セリ而シテ本養魚池ハ總面積六千七百十七坪ニシテ之ヲ十一ヶニ區別シ隅田川ノ分流ヨリ用水ヲ引入レ又各池ニハ水開ヲ設ケテ其水量ヲ調節スルノ裝置トナセルナリ

淺海ノ養殖ニハ品川灣及千葉縣下浦安ニ於テ海苔千葉縣八幡ニ於テ牡蠣其他貝類養殖上ノ實習ヲナサシムト雖モ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ廣島岡山北海道其他ノ地方ニ派遣スルコトアリ

洋海性ノ魚類及ヒ藻類ニ關シテハ從來房洲白濱ニ於テ比目魚龍蝦搗布若布等ニ就キテ其生理發生蕃殖人工孵化等ノ實驗ヲナサシメタルカ本年度ニ於テハ千葉縣下鷹ノ島ニ養殖上ノ實習場ヲ設ケ今ヤ其工事設計中ニ屬スルヲ以テ今後生徒ノ實習及試驗ニハ同所ヲ使用セントス

第五章 生徒

(二百十四名) (明治四十一年六月調)

第一節 在學生徒

一、本科

(百六十八名)

漁撈科

(六十九名)

第三學年

(十七名)

植木憲吉	兵庫平民	天野壯助	愛知平民
馬場駒雄	岡山士族	河村常一	廣島平民
吉田義男	長崎平民	飛山信治	新潟平民
新宅定一	廣島平民	福野久松	石川平民
木下信資	鳥取士族	竹内仲治	長野平民
渡邊康介	愛知平民	石井悌治	茨城平民
矢野寅一	愛媛平民	高山伊太郎	大分平民
宮脇伊太郎	鹿兒島平民	溝上二郎	兵庫士族
金子常太郎	岩手平民		

在學生徒姓名

第二學年 (三十一名)

齋藤齊	福島士族	日比義三	岐阜平民
岩本清太郎	鳥取平民	金刺琢磨	香川平民
木下辰雄	熊本平民	市川峰吉	三重平民
蓑田靜夫	鹿兒島士族	武富榮一	佐賀士族
三浦定之助	山形平民	辻志郎	栃木士族
奧村伊三郎	滋賀平民	新井藤一郎	茨城平民
奧儀喜宜	沖繩士族	後藤節藏	大分平民
古閑義康	熊本士族	明山保次郎	兵庫平民
橫田壯	福島士族	谷本坂惠	岡山平民
白井勝三郎	茨城平民	吉田定次郎	鹿兒島平民
飯尾公壽	福岡士族		
後藤榮助	香川平民	能美猪勇武	福岡平民

第一學年 (三十一名)

與那霸寬芳	沖繩士族	秋山立見	香川平民
牛山美廣	長野士族	細川可也	栃木平民
濱田五六	廣島平民	新國逸夫	新潟士族
伊吹群作	福井平民	木村成松	福井士族
竹本正文	東京士族	宮崎俊二	兵庫平民
石原重郎	熊本平民	渡邊太郎	岡山平民
三浦明	大分士族	橫山將來	石川士族
伊東猪六	佐賀士族	柴本修二	兵庫平民
黑田藤五郎	愛媛平民	木村雅一	長崎平民
竹田重雄	靜岡士族	岡本	山口平民
富永盛治郎	福島平民	吉川隆	秋田平民
加藤平吉	山形平民	秋田榮治	東京平民
興津剛	德島士族	李士襄	清國
長棟暉友	島取平民	王文泰	清國

在學生徒姓名

七十七

七十六

製造科

第三學年

(七十七名)

(二十六名)

田口	寧一郎	茨城平民	赤嶺	慎一	沖繩平民
大竹	健吉	東京土族	新井	虎之助	東京平民
大島	慎二	東京平民	森谷	茂	鹿児島土族
相澤	毅	長野平民	鈴木	厚三郎	兵庫土族
前田	隆一	兵庫平民	中島	安太郎	愛知平民
松下	高	福岡土族	藤田	要太郎	愛媛平民
富田	達道	高知平民	山極	七郎	長野平民
富山	正巳	千葉土族	岡田	勝夫	東京土族
濱部	常三郎	和歌山平民	眞田	吉之助	石川平民
久志	本欣之助	岡山土族	西方	佛次郎	神奈川平民
角田	鶴雄	埼玉平民	榊淵	覺多郎	群馬平民
小島	米吉	茨城平民	神隄	三	東京土族

陳非

清國

曹

文淵

清國

第二學年

(二十五名)

小倉	善平	栃木平民	梶山	昌	廣島平民
福井	守一	東京平民	田中	良平	埼玉平民
永井	良	神奈川平民	谷口	直太郎	兵庫平民
谷川	寅吉	滋賀平民	木村	松太郎	群馬平民
三本	源吉	兵庫平民	高瀬	重之	栃木平民
有賀	篠夫	長野土族	菅原	元一郎	岩手平民
北川	政次郎	神奈川平民	増田	久家	愛媛土族
若林	忠雄	茨城土族	山路	政一	廣島平民
一瀬	福巳	福岡土族	小林	丈太郎	岡山平民
北島	格一	佐賀平民	武田	晴宜	群馬平民
田代	實範	福岡平民	中岡	盛三	茨城平民
深澤	正作	神奈川平民	張	鏗	清國

在學生徒姓名

第一學年

(二十六名)

猪股忠雄	大分平民	横尾藤作	群馬平民
矢野實	富山平民	西村和雄	東京士族
海老澤光治	東京平民	前澤織衛	長野平民
水谷川良叙	奈良華族	菅宮清吉	茨城平民
村上次郎	山口市族	中野常德	北海道士族
武藤留八	福島平民	高宮正	山形平民
内藤俊一	山口市族	布施達治	千葉平民
青田春藏	福島士族	有坂利一	群馬平民
竹内顯三	神奈川士族	中光良介	熊本平民
岩佐定一	長崎平民	鈴木一郎	茨城平民
太田貞太郎	東京平民	藤木千尋	福岡士族
山本祥吉	廣島士族	孫英	清國
鈴木儀八	岩手平民	胡澹	清國

養殖科 (二十二名)

第三學年 (七名)

金子政之助	東京平民	藤城存知	廣島平民
阿部圭	福島平民	柳本斗夫	徳島平民
河合盾九	愛知平民	八幡光造	山形平民

第二學年 (七名)

目崎守義	埼玉士族	加藤保	愛知平民
倉上政幹	埼玉平民	武田直	宮城士族
青木尅雄	滋賀士族	菅俣吉之助	東京平民
藤森三郎	長野士族		

第一學年 (八名)

川上宗次	長野平民	三本保次郎	兵庫平民
山田政滿	福井士族	三宅仙吉	東京士族

在學生徒姓名

二、遠洋漁業科 (十二名)

村田季男	東京士族	早坂良次	山形士族
島村滿彦	高知士族	小林雄次	廣島平民

第三學年 (六名)

長內泰助	岩手士族	福井千代馬	高知士族
小松重利	高知平民	川添友志	鹿兒島平民
林田甚八	長崎平民	上枝平五郎	香川平民

第二學年 (二名)

一年志願兵

田中登	三重平民
-----	------

第一學年 (五名)

國司浩助	山口士族	秋山實	千葉平民
長友寬	宮崎士族	柳悅多	東京士族
安達誠三	石川士族		

三、研究科

漁撈科 (二名)

流網漁業ニ就テ

渡邊理一	東京華族
------	------

製造科 (二名)

杉村泰治	宮城士族
------	------

製革

四、現業科 十九名

(一) 漁撈科

○明治四十年五月入學 (遠洋漁業專修) (八名)

一色勇	京都平民	榑梅太郎	新潟平民
鈴木熊三郎	千葉平民	横山林四郎	三重平民
川崎徳左衛門	石川平民	岩並勝次郎	千葉平民
齋藤興太郎	山形平民	鈴木梅吉	千葉平民

○明治四十一年四月入學 (遠洋漁業專修) (七名)

平松幸枝	三重平民	山本重松	愛知平民
------	------	------	------

在學生徒姓名

本科

學年	學別	最高年齡	最低年齡	平均年齡	遠洋漁業科		
					第一學年	第二學年	第三學年
第一學年	漁撈科	二五、〇〇	一九、〇五	二二、〇六、五	養殖科	漁撈科	養殖科
	製造科	二六、〇二	一九、〇九	二二、〇〇、四			
	漁撈科	二四、一〇	一九、〇四	二一、〇二、一			
第二學年	漁撈科	二四、〇八	一九、一〇	二二、〇三、九	養殖科	漁撈科	養殖科
	製造科	二四、〇〇	一九、〇三	二二、〇四、八			
	漁撈科	二五、〇四	二〇、〇六	二二、〇〇、一			
第三學年	漁撈科	二八、〇二	二〇、〇三	二二、〇七、四	養殖科	漁撈科	養殖科
	製造科	二八、〇二	二〇、〇三	二二、〇一、九			
	漁撈科	二五、〇九	二二、〇六	二二、〇九、九			
第一學年	第一學年	二四、〇六	一八、〇五	二二、〇三、八	第二學年	第二學年	二三、〇〇
第二學年	第二學年	二三、〇〇	二二、〇〇	二二、〇〇、〇	第三學年	第三學年	二八、〇一
第三學年	第三學年	二八、〇一	二四、〇四	二八、〇一、八			

研究科

最高年齡	最低年齡	平均年齡
二八、一二月	二三、七月	二六、三月

四、遠洋漁業科生乘船表

(明治四十年六月調)

氏名	乘組船	漁業的ノ	航路	船質	裝網器具	長	總噸數	噸數簿	年製	月造	船籍港	船主
長友寬	糸滿丸	漁業	近海航路	木	スクーナー	八七、九寸	七、一五	七、八七	三十九年	五月八日	沖繩縣	沖繩縣糸滿遠洋漁業株式會社
安達誠三	新潟丸	漁業	同	木	同	一〇三、一尺	一四、〇〇	一四、〇〇	三十九年	三月廿三日	新潟縣	新潟縣
秋山實	富士丸	近海航路	近海航路	木	カツチ	五、六尺	二五、〇六	一六、〇〇	三十九年	三月九日	靜岡縣	靜岡縣
柳悅多	小笠原丸	近海航路	近海航路	木	スクーナー	七、八尺	七、〇〇	七、〇〇	四十年	四月十日	小笠原島	內務省

第二節 卒業生徒

五、卒業生及就職

(○ハ優等卒業●ハ死亡者) (明治四十年六月調)

在學生徒姓名

一、本科 (二百四十三名)

(一) 漁撈科 (九十七名)

(姓名イロハ順)

○明治三十一年四月卒業 (十三名)

關東都督府水産試驗場技手

自家營業

北海道小樽水産學校教諭(奏任)

鳥取縣水産學校教諭

帝國水産株式會社取締役技師長

自家營業

自家營業

樺太民政署囑託

統監府技手

- 家入 四直 福岡士族
- 橋本 猪太郎 熊本平民
- 加藤 勢三 三重平民
- 龜井 小市 山口平民
- 南摩 紀磨 東京士族
- 長友 茂三郎 宮崎士族
- 村田 乙三郎 東京士族
- 內田 治三郎 山口平民
- 武藤 禮二 宮崎士族
- 福田 久橘 長崎士族

統監府技手(馬山理事廳)

沖繩縣那覇區島尻水産學校教諭

大日本水産株式會社製造部長

○明治三十二年四月卒業 (十五名)

(十五名)

- 木村 廣三郎 石川士族
- 庄司 與一郎 石川平民
- 菅谷 毅 茨城平民
- 石野 敬之 千葉平民
- 大庭 弘雅 福岡平民
- 大谷 正猛 高知士族
- 高橋 潤二 岡山平民
- 山下 節治 長崎平民
- 矢野 新吉郎 熊本士族
- 松崎 彌一 鹿兒島平民
- 古田 正知 岐阜士族
- 小林 音八 新潟平民
- 坂本 庄太郎 佐賀平民

卒業生及就職

自家營業(製網業)

山口縣豊浦郡水産巡廻教師

北海道岩内支廳技手

朝鮮海水産組合技手

山口縣水産試驗場技手

○明治三十三年四月卒業

(十二名)

佐々木一郎

廣島平民

宮下知一

東京平民

下國冲助

北海道士族

樋口律太郎

長崎平民

茂又忠三

秋田士族

●吉永貴八郎

長崎士族

田中仁吉

島根平民

田谷英

石川平民

津田美津彦

福岡士族

○中村嘉壽

鹿兒島平民

久保澤董

青森士族

松田林

宮崎士族

小金丸増次郎

福岡平民

遠洋漁業練習生(在米)

岡山縣水産試驗場技手

在米

香川縣水産試驗場技手

千葉縣水産講習所技手

遠洋漁業練習生(在米)

流監府技手

千葉縣水産試驗場技手

鹿兒島縣加世田嶺漁業會社取締役

岩手縣水産學校教諭

○明治三十四年四月卒業

(八名)

小島才一

神奈川平民

小木原元吉

鹿兒島士族

森藏助

鹿兒島士族

須田正治

山形平民

宮城縣水産學校教諭

自家營業

遠洋漁業科在學(在米國)

三重縣水産試驗場技手

秋田縣水産試驗場技手

小笠原島廳技手

和歌山縣水産試驗場技手

○明治三十五年四月卒業

(五名)

卒業生及就職

○本間平八

山形平民

長内泰助

岩手士族

大川辰藏

兵庫平民

松尾秀夫

長崎士族

前田春水

宮城平民

荒卯忠

福島士族

喜多山昇來

愛媛士族

新潟縣水產試驗場技手

高知縣土佐遠洋漁業株式會社技師

自家營業

自家營業

長崎縣北松浦郡巡廻教師

○明治三十六年七月卒業

北海道廳技手

在暹羅

福井縣水產學校教諭

三重縣水產試驗場技手

富山縣水產講習所技手

水產講習所技手

○明治三十七年七月卒業

(十二名)

九十四

額田喜一 香川平民

小島省吾 石川士族

佐藤正孝 山形平民

日高靖 宮崎平民

元木淑人 德島平民

稻見彌一郎 北海道平民

岩田雄 京都平民

內田四郎七 福井平民

黒木圓太 福岡平民

山田廣次 福岡平民

宮田光 京都平民

關根磯吉 東京平民

愛知縣水產試驗場技手

漁業

自家營業

静岡縣水產試驗場技手

一年志願兵

宮城縣東白杵郡水產巡回教師

帝國水產株式會社技師

東洋漁業株式會社

遠洋漁業科在學

鹿兒島縣水產試驗場技手

青森縣技手

○明治三十八年七月卒業

(十三名)

秋田縣水產試驗場技手

卒業生及就職

九十五

堀邊定助 新潟士族

渡邊理一 東京華族

寛多記 茨城士族

田中榮定 長崎士族

中島昌三 廣島士族

中島秀男 島根士族

長井貫吾 新潟平民

山岸留之助 北海道平民

小松重利 高知平民

美代清信 鹿兒島士族

杉江謙治 石川士族

伊藤朗 愛知平民

遠洋漁業科在學(在英)

新潟縣能生水產學校教諭

遠洋漁業科在學

農商務省水產局技手

遠洋漁業科在學

樺太民政署技手

自家營業

遠洋漁業科在學(在英)

宮城縣水產試驗場技手

高知縣水產試驗場技手

○明治三十九年七月卒業

北海道水產試驗場技手

九十六

林田甚八 長崎平民

堀江英一 廣島平民

●川口錄一 岐阜士族

川添友志 鹿兒島平民

南部寬 福井士族

●村上素 宮城平民

上枝平五郎 香川平民

久保雷之助 愛媛平民

山根左中 島根平民

福井千代馬 高知士族

木暮彌七 群馬士族

水間春吉 德島士族

登坂高三 山形士族

(十二名)

宮崎縣水產試驗場技手

水產講習所技手

一年志願兵

山口縣技手

一年志願兵

島根縣水產試驗場技手

水產講習所技手

山口縣熊毛郡水產巡迴教師

千葉縣技手

山口縣水產試驗場技手

鹿兒島縣水產試驗場技手

一年志願兵

遠洋漁業科在學

(十五名)

○芳賀奈七郎 岩手平民

安達誠三 石川士族

●川島信一 廣島士族

九十七

卒業生及就職

日本橋魚河岸米嘉商店

遠洋漁業科在學(在美)

廣島縣水産試験場技手

水産講習所助手

一年志願兵

静岡縣水産試験場技手

自家營業

長崎縣水産試験場技手

宮城縣本吉郡水産學校教諭

一年志願兵

富山縣水産講習所技手

一年志願兵

遠洋漁業科在學

- 野間口兼美 鹿兒島士族
- 國司浩助 山口士族
- 木津和秀勇 廣島平民
- 長田景貞 鹿兒島士族
- 熊田頭四郎 栃木平民
- 小崎彰 宮城士族
- 秦半兵衛 東京平民
- 村岡貫一 山口平民
- 小川幸之進 岡山平民
- 中北靜 岐阜平民
- 村山吉助 山形士族
- 東郷保一 宮城平民
- 長友寛 宮崎士族

○明治四十年九月卒業 (三名)

遠洋漁業科在學

(二) 製造科

(百三十九名) (姓名イロハ順)

○明治三十一年四月卒業 (三十四名)

- 秋山實 千葉平民
- 柳悦多 東京士族
- 今井次郎 神奈川平民
- 長谷川作次 石川平民
- 濱元四郎太郎 富山平民
- 西宮常八 香川平民
- 堀江銀之助 熊本士族
- 本郷益雄 東京士族
- 小倉順三 千葉平民
- 小野辰次郎 東京士族

水産講習所技手

臺灣臺南北門嶼專賣支局

愛媛縣水產試驗場技手
在米國

和歌山縣水產試驗場技手

山口縣技手

自家營業

千葉縣水產試驗場技手

自家營業

自家營業

東京府技手

大日本水產株式會社技師

大津吉之介

岡本賢一

吉川尙方

吉田三俊

高松勝重

田所清雄

中西英男

中島庸三

大和由太郎

山本廣三

牧野左馬三

前田庄五郎

藤村守一

茨城平民

大分士族

東京士族

大坂士族

三重士族

茨城平民

三重士族

長野平民

東京平民

千葉平民

大分士族

大分平民

兵庫平民

高知士族

●松生猪三男

●古賀駿輔

駒澤幸一

北川克郎

木原方吉

宮本周市

●三島拙郎

白石靜

平野友安

守田貞三

關原東太

井關正行

市橋丁丸

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

○明治三十二年四月卒業

(二十二名)

臺灣打狗專賣支局

卒業生及就職

千葉縣水產講習所技手

自家營業

海外實業練習生(在米國)

愛媛縣伯方專賣局技手

宮崎縣水產試驗場技手

佐賀縣水產巡迴教師

茨城縣水產試驗場技手

新潟縣能生水產學校教諭

百一

自家營業(鱈肝油製造)

朝鮮海水產組合技手(在木浦)

農商務省水產局技手

愛知縣知多郡水產巡廻教師

宮崎縣技師兼水產試驗場長

自家營業

食鹽コークス株式會社技師

在米國

石川縣水產試驗場技手

千葉縣鴨川水產學校教諭兼校長

青森縣水產試驗場技手

茨城縣大津水產學校教諭

西堀良造

富樫 恒 千葉士族

○小川清一 佐賀士族

大木盛三郎 東京士族

辻好司郎 石川士族

○中村平八 德島平民

舊姓小倉 久甫恒介 山口市族

黒岡安定 東京平民

府玻健藏 石川平民

府中喜八郎 石川平民

小石季一 秋田士族

小岩井治世 青森士族

藍野一男 千葉平民

佐々木繁太郎 香川平民

●北野宇佐吉 德島平民

●肝付兼昌 鹿兒島士族

光増健三郎 佐賀士族

●宮島伊望 千葉平民

澁谷源七 宮城平民

廣戶勝藏 島根平民

舊名長作 一宮弘人 長崎士族

伊藤哲太郎 茨城平民

舊姓渡邊 濱田直作 富山平民

大西珍平 岩手平民

金高喜一郎 千葉平民

吉田虎藏 德島平民

舊姓大市 室伏俊五郎 三重平民

長崎縣技手

自家營業

自家營業

○明治三十三年四月卒業

(十五名)

大日本水產株式會社技師

茨城縣大津水產學校教諭兼校長

山口縣水產試驗場技手

自家營業

自家營業(海產物問屋)

卒業生及就職

自家營業

百四

浦山伍作 石川平民

久保茂助 山口平民

●久木田勝馬 鹿兒島士族

久谷歎一郎 島根平民

阿部 轍 宮城平民

齋藤七郎 千葉平民

○水野幸次郎 愛知平民

鹽田愛隣 千葉平民

●池田熊之助 鹿兒島士族

千葉幸三郎 東京士族

●小野寺克彦 宮城平民

中井國太郎 愛媛平民

野元俊一 鹿兒島士族

自家營業

茨城縣水產試驗場技手

在米國

岩手縣水產學校教諭

○明治三十四年四月卒業 (九名)

樺太水產試驗場技手

東洋製粉株式會社專務取締役

水產講習所助教

宮崎縣水產試驗場技手

大藏省專賣局技手

○明治三十五年四月卒業 (三名)

●小見山富市 熊本平民

●朝比奈雪 靜岡士族

岩城宣郎 靜岡平民

中野速吉 德島平民

久保田信治 兵庫平民

石原重良 山形士族

岩本正孝 長野士族

渡邊安忠 大分士族

●吉川秀之 石川士族

宗熊 大分士族

○明治三十六年七月卒業 (十三名)

帝國水產株式會社技師

北海道水產試驗場技手

福島縣水產試驗場技手

靜岡縣水產試驗場技手

卒業生及就職

百五

自家營業

帝國帆船保險株式會社

海外實業練習生(在獨逸)

北海道廳技手

小笠原島廳技手

水產講習所技手

在米國

帝國水產株式會社

○明治三十七年七月卒業

(八名)

岩手縣水產學校教諭

帝國冷蔵株式會社

水產講習所技手

樺太民政署水產部

大日本水產株式會社

百六

內村可一 德島平民

舊姓野田 田島百人 熊本士族

松尾靈彦 愛知平民

淺井鎌吉 東京士族

酒井惣次郎 三重平民

舊名與吉 菊池健 岩手士族

宮內友吉 鹿兒島平民

志村彦藏 山形士族

堀田嘉吉 岩手平民

河村尊雄 京都平民

鍋島熊道 高知平民

○安藤俊吉 熊本士族

兵庫平民

大日本水產株式會社

大日本水產株式會社

在米國

○明治三十八年七月卒業

(十七名)

臺灣臺南縣鳳山岡村罐詰製造所技師

樺太民政署技手

東洋鹽業株式會社技師

關東都督府水產試驗場技手

北海道水產試驗場技手

在米

鈴木製鹽場技師

卒業生及就職

百七

白石肅次郎 新潟士族

森萬次郎 東京平民

勢島莊太郎 福岡平民

伊東二郎 茨城平民

林碌郎 大阪平民

馬場清止 宮城士族

河西延次郎 香川平民

武季作 東京士族

長屋熊槌 廣島平民

宇加治文雄 茨城平民

國島徹 北海道士族

安永宗治 福岡平民

牧野健次郎 靜岡平民

福井縣立小濱水產學校教諭

水產講習所技手

北海道小樽水產學校教諭

宮城縣水產試驗場技手兼宮城縣水產學校教諭

水產講習所助教

愛知縣水產試驗場技手

香川縣水產試驗場技手

○明治三十九年七月卒業 (十八名)

福島縣水產試驗場技手

沖繩縣島尻郡島尻水產學校教諭

東洋水產株式會社技師

富山縣水產講習所技手

自家營業

一年志願兵

松坂省輔 山口平民

益滿行綱 東京士族

江島悅次郎 福岡士族

栗屋協二 愛知士族

木村金太郎 東京士族

鈴木幸太郎 靜岡平民

杉山恒吉 德島士族

池內清 愛知士族

岩井龜治 高知平民

○高崎達之助 大阪平民

立川卓逸 新潟士族

仲野九郎 兵庫平民

中山克己 高知平民

東洋鹽業株式會社

三重縣水產試驗場技手

大日本捕鯨株式會社技師

岡山縣三田尻鹽務局技手

東洋水產株式會社

一年志願兵

滿韓鹽業株式會社

自家營業

在清國

○明治四十年七月卒業 (十五名)

大日本水產株式會社

卒業生及就職

中村平 福岡平民

名村竹雄 福井士族

宗像浩次郎 廣島平民

內田耕 東京平民

上田壯一 山口平民

大槻清三 東京平民

山內豐彦 茨城士族

福島政吉 東京士族

赤坂和 北海道平民

喜代美榮一郎 長崎士族

篠原睦造 島根平民

柴田匡一 岐阜士族

○吉野孝 長野士族

大日本水産株式会社
 鳥根縣水産學校教諭
 帝國冷蔵株式会社
 一年志願兵
 大日本水産會社
 北海道水産試驗場技手
 大藏省專賣局技手
 香川縣水産試驗場技手
 大日本水産會
 東北帝國大學農科大學水産科助教
 自家營業
 北海道檜山支廳水産技手
 東洋漁業株式会社

梅宮鶴藏 福島平民
 島崎眞哉 高知士族
 永峰治光 北海道士族
 佐々田榮重 島根平民
 里深清一 兵庫平民
 中島董一郎 東京平民
 種谷六三 埼玉平民
 野口莊次 埼玉平民
 岡本剛三 東京平民
 山中巖 廣島平民
 市川清 東京士族
 間世田名臣 鹿兒島士族
 三森富雄 東京士族
 林隆義 東京士族

○明治四十年九月卒業 (二名)
 研究科在學

(三) 養殖科 (三十九名) (姓名イロハ順)

○明治三十一年四月卒業 (九名)

自家營業
 靜岡縣水産試驗場技手
 熊本縣水産試驗場技手
 滿韓鹽業株式會社
 千葉縣水産試驗場技手(船橋養殖場)
 岡山縣藤田組養殖部主任
 農商務技手(尾ノ道水産試驗場)

杉村泰治 宮城士族
 崎德次郎 千葉平民
 西島新藏 山口市族
 大石芳三 佐賀士族
 吉川諄 埼玉平民
 高橋重太郎 岩手平民
 長島幸吉 千葉平民
 藤田政勝 兵庫士族
 ●淺井長三郎 福島平民
 坂井安三郎 佐賀平民

卒業生及就職

○明治三十二年四月卒業

(五名)

滋賀縣水產試驗場技師兼場長

滋賀縣水產試驗場技手

日本銀行

新潟縣能生水產學校教諭

○明治三十三年四月卒業

(八名)

山口縣水產試驗場技手

茨城縣水產試驗場技手

自家營業

北海道小樽水產學校教諭
在米

農商務省水產局技手

岡山縣水產試驗場技手

百十二

○川端重五郎

三重平民

●壁谷可也

東京平民

內山龜五郎

福井平民

山本開作

神奈川平民

須田 誠

東京平民

○石田五一郎

山口平民

○今野虎吉

福島平民

伊藤俊治

千葉平民

緒方茂十郎

大分士族

小野佐久雄

東京士族

秋山永次

東京士族

肥後了

鹿兒島士族

○明治三十四年四月卒業

(三名)

北海道廳技手

●櫻田廣吉

秋田士族

舊姓伊達

片倉健吉

東京華族

●長島八郎

神奈川平民

須田義二郎

山形士族

○明治三十五年四月卒業

(三名)

德島縣水產試驗場技手

兵庫縣淡路國福良真珠養殖場技手

自家營業

千葉縣水產講習所技手

○明治三十六年七月卒業

(四名)

三重縣水產試驗場技手

北海道水產試驗場技手(西別分場)

農商務省水產局技手

水產講習所技手

河合 嚴

愛知平民

山下平造

兵庫平民

山本由一

東京士族

○越田德次郎

東京平民

卒業生及就職

百十三

○明治三十七年七月卒業 (二名)

水産講習所技手

海外實業練習生(在米)

○明治三十八年七月卒業 (三名)

熊本縣水産試驗場技手

水産講習所助手

静岡縣技手兼水産試驗場技手

○明治三十九年七月卒業 (三名)

日本養魚株式會社技師

○明治四十年七月卒業 (二名)

宮内省林野管理局技手

一年志願兵

○明治四十年九月卒業 (二名)

○九川久俊 島根平民

椎原廣男 鹿兒島士族

西山伊六 佐賀士族

東道太郎 東京士族

平木浩 福岡平民

萩原實治 兵庫平民

鐘ヶ江東作 佐賀士族

谷口利三郎 廣島平民

徳久三種 山口平民

西村茂生 山口平民

(姓名イロハ順)

一 遠洋漁業科 (十八名)

○明治三十三年五月卒業 (二名)

水産講習所技手

舊姓宮澤

黒田九萬男 東京士族

○明治三十四年七月卒業 (二名)

自家營業

南摩紀麿 東京士族

○明治三十四年八月卒業 (二名)

藤田勘太郎 島根平民

統監府技手

木村廣三郎 石川士族

○明治三十五年二月卒業 (二名)

高原剛太郎 福岡士族

山口縣熊毛郡水産巡廻教師

志村次郎 東京士族

○明治三十五年七月卒業 (三名)

金勢丸漁獵長

石野敬之 千葉平民

卒業生及就職

自家營業

○明治三十六年一月卒業 (二名)

松崎彌市 鹿兒島平民
森繁樹 鹿兒島士族

○明治三十六年十月卒業 (二名)

高橋瀏二 岡山平民

農商務省技手兼水産講習場技師

○明治三十七年五月卒業 (二名)

下田奎一 鹿兒島士族

遠洋漁業練習生(在米)

○明治三十七年十一月卒業 (二名)

小金九增次郎 福岡平民

岩手縣宮古水産學校教諭

○明治三十八年一月卒業 (二名)

戶田半平 静岡平民

○明治三十八年三月卒業 (二名)

前田春水 東京平民

松尾秀夫 長崎士族

○明治三十八年十月卒業 (二名)

佐藤正孝 山形平民

○明治三十九年四月卒業 (二名)

田中仁吉 島根平民

遠洋漁業練習生(在米)

○明治三十九年十月卒業 (二名)

黒木圓太 福岡平民

三重縣水産試験場技手

三、研究科 (四名)

(姓名イロハ順)

(一) 漁撈科

○明治三十七年十二月卒業 (二名)

日高靖 宮崎平民

○明治四十年三月卒業 (一名)

●吉永貴八郎 長崎士族

(二) 養殖科

○明治三十七年十一月卒業 (二名)

卒業生及就職

茨城縣水産試験場技手

○明治三十九年十月卒業 (二名)

水産講習所技手

四、現業科 (百二十二名)

(一) 漁撈科 (十名)

○明治三十三年三月卒業

(市若網漁業専修)

(五名)

高知縣水産組合

自家營業

自家營業

自家營業

○明治三十九年十月卒業

(遠洋漁業専修)

(五名)

長崎縣水産試験場飛龍漁獵長

百十八

今野 虎吉 福島平民

九川 久俊 島根士族

戸田 圓次 高知平民

土井 常吉 新潟平民

大橋 直吉 静岡平民

紙子 次作 石川平民

多屋 勝四郎 和歌山平民

池田 兼吉 千葉平民

石井 次郎 千葉平民

東海漁業株式會社第一房總丸

東海漁業株式會社(第一房總丸乘組)

東海漁業株式會社(第三房總丸船長)

○明治四十年九月卒業 (經漁業流網及延繩漁業)

(五名)

濱田 進 鹿兒島士族

渡邊 梅吉 千葉平民

津島 德松 千葉平民

漁業

岩崎 吉兵衛 静岡平民

茨城縣水産試験場筑波丸機關士

田崎 次郎 茨城平民

漁業

増田 鬼一郎 静岡平民

漁業

有原 初三郎 静岡平民

漁業

見原 萬吉 静岡平民

○明治四十年十月卒業 (延繩及流繩漁業)

(四名)

漁業

津田 萬治 千葉平民

準丸乘組

上原 丈助 同

漁業

平田 辰五郎 同

第三房總丸漁獵手

鈴木 萬之助 同

卒業生及就職

百十九

○明治四十年十二月卒業(露漁業) (二名)

北水丸乗組

同

○明治四十年六月卒業(捕鯨専修) (八名)

- 大平洋漁業株式會社第一大平洋丸砲手
- 帝國水産株式會社六甲丸砲手
- 東海漁業株式會社天富丸砲手
- 大日本捕鯨株式會社第五捕鯨丸乗組
- 東洋漁業株式會社ニコライ丸乗組
- 長崎捕鯨合資會社第一東郷丸乗組
- 日韓捕鯨株式會社
- 日韓捕鯨株式會社

○明治三十一年十一月卒業(續詰専修) (五名)

(二) 製造科

- 伊藤猪之助 福岡平民
- 小田積美 東京士族
- 岩村孫作 長崎平民
- 向井三吉 和歌山平民
- 上原由之助 靜岡平民
- 倉光三郎 青森士族
- 山岸留之助 北海道平民
- 小坂定治 長崎平民
- 島可淳 神奈川平民
- 柴恒太郎 富山平民

自家營業

自家營業

石川縣水産會幹事

自家營業

○明治三十二年十二月卒業(續詰専修) (五名)

- 自家營業
- 自家營業
- 自家營業
- 自家營業
- 自家營業

○明治三十三年十二月卒業(續詰専修) (五名)

在米國

- 河野巖 宮崎平民
- 加藤明二 秋田平民
- 鹽井與八 石川平民
- 廣瀬宗義 鹿兒島平民
- 森義直 京都士族
- 中村里次郎 愛知平民
- 内田藏次郎 島根平民
- 松浦善市 熊本士族
- 松坂豐隆 富山平民
- 菅波仙之助 福島平民
- 及川鼎壽 宮城士族
- 村田新五郎 愛知平民

卒業生及就職

○明治三十四年十二月卒業(罐詰專修)

自家營業

自家營業

罐詰業(在樽太)

自家營業

自家營業

○明治三十五年十二月卒業(罐詰專修)

京都府水産講習所

自家營業

鹿兒島縣森罐詰製造所

自家營業(水産物製造販賣)

山田 德松 宮崎平民

● 梁 瀬弘 長崎士族

古川 德吉 滋賀平民

(五名)

村江 保翼 長崎士族

小松 由平 千葉平民

宮内 喜一 鹿兒島平民

鈴木 兼助 愛知平民

菅原 養藏 宮城平民

(六名)

糸井 藤吉 京都平民

米田 榮 青森平民

中尾 千代之助 鹿兒島平民

山田 忠五郎 東京平民

新井 元吉 和歌山平民

里見 時之助 山口平民

(六名)

井上 三次郎 三重平民

花見 七治 北海道平民

金子 房治 千葉士族

河合 音治 愛知平民

田村 忠太夫 岩手平民

黄桂 茶清 國

(八名)

濱 壽楠 和歌山平民

加藤 磯次 富山平民

八木 佐吉 滋賀平民

山田 達 愛知平民

自家營業
自家營業

○明治三十六年十二月卒業(罐詰專修)

三重縣水産試驗場技手

北海道水産試驗場

東海漁業株式會社

新潟縣水産試驗場助手

自家營業

自家營業(清國上海)

○明治三十七年十一月卒業(罐詰專修)

自家營業

罐詰業(在樽太)

内外水産株式會社(大阪)

自家營業

卒業生及就職

大日本水産株式会社(富山工場)

東洋水産株式会社技手

自家營業

大日本水産株式会社技手

○明治三十八年十二月卒業(續誌專修)

(十名)

松浦金平	兵庫平民
紺谷平治	石川平民
相木嘉一	福井平民
森真	静岡平民

堀内謙藏

岩手平民

掘部貫一

大分平民

小野末男

福島平民

大上伊勢吉

兵庫平民

●高橋敬三郎

三重平民

●田河恒藏

熊本平民

●高杉賢藏

秋田平民

田中寅之助

愛知平民

仲田文五郎

冲繩平民

自家營業

○明治三十九年十二月卒業(續誌專修)

(十名)

森本喜之助

和歌山平民

東洋水産株式会社

濱口義正

三重平民

西川正次

東京士族

自家營業

放生要松

富山平民

趙楯

清國

相馬柳吉

秋田平民

大日本水産株式会社

梅野正次

東京平民

貯蔵食品製造所

岡田太郎

和歌山士族

自家營業

矢部喜藏

新潟平民

自家營業

松浦久雄

三重士族

小林義篤

新潟平民

○明治四十年十二月卒業(續誌專修)

(七名)

京都府水産講習所在勤

一色彌太

京都平民

卒業生及就職

百二十五

百二十四

自家營業

大日本水產株式會社

大日本水產株式會社水見製造所

東洋水產株式會社

○明治三十二年三月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)

三重縣志摩郡役所書記

自家營業(沃度製造業)

自家營業

自家營業

自家營業

○明治三十三年二月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)

自家營業

自家營業

百二十六

石川喜助

北海道平民

秩父重宏

青森士族

三浦大造

愛知平民

野村利兵衛

京都平民

大畑伊八

三重平民

(五名)

田中清之助

三重平民

山口三之助

千葉平民

昆良八

岩手平民

越瀨市松

和歌山平民

佐藤義厚

茨城平民

(五名)

畑谷丑太郎

北海道平民

赤平卯十郎

青森平民

自家營業

自家營業

○明治三十四年三月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)

自家營業

自家營業

自家營業

○明治三十四年十二月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)

高知縣浮津水產補習學校長

自家營業

自家營業

自家營業

○明治三十六年四月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)

自家營業

卒業生及就職

●佐藤漁太郎

宮城平民

宮津吾弼

山口平民

杉本傳太郎

靜岡平民

(三名)

田中富佐

福井平民

松本龜太郎

高知平民

木高金之助

千葉平民

(四名)

池内林太郎

高知平民

熊谷伊三郎

福岡平民

山口太助

佐賀平民

森崎茂樹

靜岡平民

(四名)

米田

榮

青森平民

百二十七

橫濱漁油株式會社

自家營業

自家營業

○明治三十六年十二月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)

(五名)

自家營業

自家營業

自家營業

自家營業

○明治三十八年十二月卒業(魚油、魚蠟專修)

(五名)

自家營業

自家營業

自家營業

自家營業

自家營業

前田隆次郎

愛知平民

小松由平

千葉平民

齋藤玉治

愛知平民

六久保直太郎

高知平民

島山吉雄

宮城平民

砥板源三郎

福岡平民

古川九滿次

熊本士族

坂口榮太郎

靜岡平民

土岐音吉

千葉平民

高鍋志郎

兵庫平民

田井安太郎

東都平民

會根武兵衛

和歌山平民

自家營業

○明治四十年一月卒業(魚油、魚蠟專修)

(三名)

自家營業

自家營業

自家營業

○明治三十四年十月卒業(鯉節、其他節類專修)

(二名)

自家營業

自家營業

○明治三十五年十月卒業(鯉節、其他節類專修)

(五名)

自家營業

自家營業

安增罐詰製造所

自家營業

自家營業

卒業生及就職

松浦萬龜太

島根平民

芳賀岩治郎

宮城士族

花坂傳吉

岩手平民

小澤謙三

千葉平民

大黒一誠

高知平民

齋藤初吉

長崎平民

奏信之助

島根平民

米田榮

青森平民

熊谷伊三郎

福岡平民

山本荒太郎

和歌山平民

山下藤三郎

鹿兒島平民

○明治三十六年十一月卒業(經節,其他節類專修) (三名)

百三十

自家營業

沖繩水産株式會社々長

市川忠吉 山形平民
山岡則重 高知土族
安里積勳 沖繩平民

○明治三十八年十月卒業(經節,其他節類專修) (二名)

岩手縣技手

自家營業

箱石米定 岩手平民
名嘉幸德 沖繩平民

○明治三十九年十月卒業(經節,其他節類專修) (六名)

自家營業

德平秀郡 沖繩平民

自家營業

竹田信平 島根平民

自家營業

國吉榮洪 沖繩平民

自家營業

淺沼文八 東京平民

自家營業

坂下圓次郎 岩手平民

自家營業

柴正武 富山平民

○明治四十年十月卒業(經節,其他節類專修) (三名)

自家營業

岩城字平 宮城平民

自家營業

村上倉次郎 北海道平民

自家營業

齋藤八郎 靜岡平民

○明治四十年十月卒業(冷蔵法) (壹名)

有魚九機關士

村上德市 廣島平民

(三) 養殖科

○明治四十一年三月卒業(鮭鱒養殖專修) (三名)

自家營業

石川廣之助 茨城平民

秋田縣水産試驗場技手

拂川悌之輔 秋田土族

自家營業

野村兼次郎 宮城平民

五、水産教員養成科 (二十五名) (姓名不詳順)

○明治三十九年十二月卒業(十五名)

海外實業練習生(在米國)

市原佐太郎 高知士

卒業生及就職

百三十一

愛媛縣農學校教諭

北海道龍田郡龜田高等小學校長

靜岡縣富士農林學校教諭

新潟縣中頸城郡視學

北海道廳立小樽水產學校教諭

和歌山縣和歌山中學校教諭

朝鮮海水產組合技手

石川縣專賣局金澤收納所技手

大日本水產株式會社

水產講習所助教兼書記

岩手縣技手

秋田縣旭尋常小學校長

羽生 辨之進 愛知士族

大竹 敬造 北海道士族

加藤 伊砂吉 靜岡士族

片田 久次郎 新潟士族

加藤 登太郎 山形士族

正富 彌藏 岡山士族

正林 英雄 長崎士族

秋保 知次 京都士族

佐々木 武治 青森平民

宮崎 賢一 福井平民

滿岡 彦三 長崎士族

平山 嘉右衛門 佐賀士族

關菊 治 岩手平民

秋田平民

○明治三十六年四月卒業(十名)

愛媛縣私立住友總開尋常高等小學校訓導

青森縣深浦水產補習學校訓導兼校長

茨城縣多賀郡大津水產學校

三重縣肥料檢查官

鳥取縣技手

茨城縣若松水產學校教諭兼校長

鳥取縣岩美郡浦富水產學校教諭兼校長

宮城縣本吉郡水產學校教諭

德島縣椿泊水產補習學校訓導兼校長

六、製鹽技術員養成科

○明治三十九年三月卒業(十名)

德島縣專賣局撫養收納所技手

西原 佐一 愛媛平民

長内 清吾 青森平民

山本 次郎八 熊本平民

松波 虎之助 和歌山平民

佐藤 暹 岡山平民

笹子 治 千葉平民

喜多川 良吉 石川士族

志水 清 兵庫士族

篠原 直衛 廣島平民

森川 萬藏 福井平民

(十八名) (姓名イロハ順)

市川 信次 鹿兒島士族

茨城縣專賣局收納所技手
 富田 登吉 栃木平民
 東條 高治 新潟平民
 岡本 靜一郎 福岡平民
 大河 內重義 和歌山平民
 中原 經治 福島士族
 中村 丈 福岡士族
 北川 九一郎 滋賀士族
 平林 保義 東京士族
 尾關 素一 東東士族
 吉武 幾甫 山口平民
 永井 重藏 兵庫平民
 黑田 藤五郎 愛媛平民

○明治四十年三月卒業(八名)

岡山縣專賣局三田尻收納所技手
 鹿兒島縣專賣局加治木收納所技手

岡山縣專賣局味野收納所技手
 黑佐 安臣 岡山平民
 德島縣專賣局撫養收納所技手
 松田 一平 德島平民
 大藏省專賣局津田沼製鹽試驗場履
 三浦 一 岩手平民
 長崎縣西彼杵郡喜津村專賣局出張所技手
 三輪 清彦 愛知平民
 ○明治四十一年三月三十日卒業(六名)

大阪府專賣局大阪收納所技手
 橋本 昇次郎 栃木平民
 山口縣專賣局三田尻收納所技手
 片山 甲太郎 三重平民
 水産講習所助手
 永山 千春 東京士族
 岡山縣專賣局味野收納所技手
 安岡 貞雄 高知士族
 德島縣專賣局撫養收納所技手
 木村 新太郎 香川平民
 熊本縣專賣局熊本收納所技手
 清家 幹一郎 愛媛平民

一、卒業生徒狀況

卒業生及就職

卒業生徒状況

	海東 區北	區 海 南 西	區 海
埼	北	德高宮沖鹿熊佐長福	大兵香岡廣愛
	海	兒	
玉	道	島知崎繩島本賀崎岡	阪庫川山島媛
一	三	二三六 九二一七六	一三二五二
二	四	六六 七四四二五	三六三 三二
一		二 四 二	三 一
四	七	八九七 八六九九三	三〇六二九三
		四 一三	一
		一	
	五	六三五五三一六四	三 一
	一	一 一 一 二	一 二 一 一
一		一 二 一 一	一 一 一
五	三	九八〇五 八〇一九一	三五八六二六

百三十九

内	區 海 北	區
山大	秋山新石富福京鳥島	青岩宮福茨千
口分	田形瀉川山井都取根	森手城島城葉
五	一五三七 二二 三	二二五一二二
五七	一二二七二 一一 五	一三五二六〇
四一	一 一 一 一 一	一 一 四
一四七	三八六四二四三 九	三六九五八六
	一 一 二	一 一
	一	一 一 一
二一	四一三三五二五 四	六六六二三五
	一 一 一 二 一	二 一 一
一	一	一 一
一七八	八一一八七八九 六	一四七九一三

百三十八

總計	製鹽技術員	教員養成科	計	業現					研究科	遠洋漁業科	計	養殖科
				鮭鱒養法	冷藏法	鯉節類	油蠟沃度	罐詰				
二三	一	一	八	二	一	六	三	三	一	二	三	
四	一	一	三	一	一	一	二	三	一	二	四	
一〇	一	一	四	一	一	一	三	一	一	五	一	
七	二	五	二	一	一	一	二	一	三	四	六	
二六	一	二	二	一	一	一	三	一	一	九	三	
七	一	一	七	一	一	一	二	一	四	六	三	
二九	一	五	一	一	一	一	一	一	一	三	二	
三	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
七	一	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	一	
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	
九	一	一	一	一	一	一	一	一	二	六	一	
一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	一	
一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	
三〇	一	一	四	一	一	一	三	一	一	三	五	
四九	一	一	九	一	一	一	六	二	一	五	二	
五〇	二	二	一五	三	一	二	四	七	二	二〇	三	

科本	製漁造科	科別	科類		計
			營自	社及商會	
一七	三	營自	社及商會	一	三
二七	五	社及商會	水產	一	五
一	三	合榮組	水產	一	三
二	二〇	廳官	水產	一	二〇
九	七	所講習	水產	一	七
二四	二五	場試驗	水產	一	二五
一〇	九	學校	水產	一	九
一	一	學校補習	水產	一	一
一	一	學校	其他	一	一
一	七	所本	學	一	七
一	三	他其	生	一	三
二	三	練習	實業	一	三
七	一	他其	左海外	一	七
三	七	役兵	兵	一	七
二	四	亡死	死	一	四
一	八	詳未	未	一	八
一	五	計總	計	一	五

卒業生徒就職狀況一覽表

(明治四十年六月調)

總計	國外	外區				
		清	長岐	滋山	奈柄	群
一	一	野	阜	賀	梨	良
二	二	馬				
一	一		三	一	一	二
二	二					
三	三		三	一		
四	四					
五	五					
六	六					
七	七					
八	八					
九	九					
一〇	一〇					
一一	一一					
一二	一二		三	四		一
一三	一三					
一四	一四					
一五	一五					
一六	一六					
一七	一七					
一八	一八					
一九	一九					
二〇	二〇					
二一	二一					
二二	二二					
二三	二三					
二四	二四					
二五	二五					
二六	二六					
二七	二七					
二八	二八					
二九	二九					
三〇	三〇					
三一	三一					
三二	三二					
三三	三三					
三四	三四					
三五	三五					
三六	三六					
三七	三七					
三八	三八					
三九	三九					
四〇	四〇					
四一	四一					
四二	四二					
四三	四三					
四四	四四					
四五	四五					
四六	四六					
四七	四七					
四八	四八					
四九	四九					
五〇	五〇					
五一	五一					
五二	五二					
五三	五三					
五四	五四					
五五	五五					
五六	五六					
五七	五七					
五八	五八					
五九	五九					
六〇	六〇					
六一	六一					
六二	六二					
六三	六三					
六四	六四					
六五	六五					
六六	六六					
六七	六七					
六八	六八					
六九	六九					
七〇	七〇					
七一	七一					
七二	七二					
七三	七三					
七四	七四					
七五	七五					
七六	七六					
七七	七七					
七八	七八					
七九	七九					
八〇	八〇					
八一	八一					
八二	八二					
八三	八三					
八四	八四					
八五	八五					
八六	八六					
八七	八七					
八八	八八					
八九	八九					
九〇	九〇					
九一	九一					
九二	九二					
九三	九三					
九四	九四					
九五	九五					
九六	九六					
九七	九七					
九八	九八					
九九	九九					
一〇〇	一〇〇					

明治四十一年六月廿九日印刷

明治四十一年七月二日發行

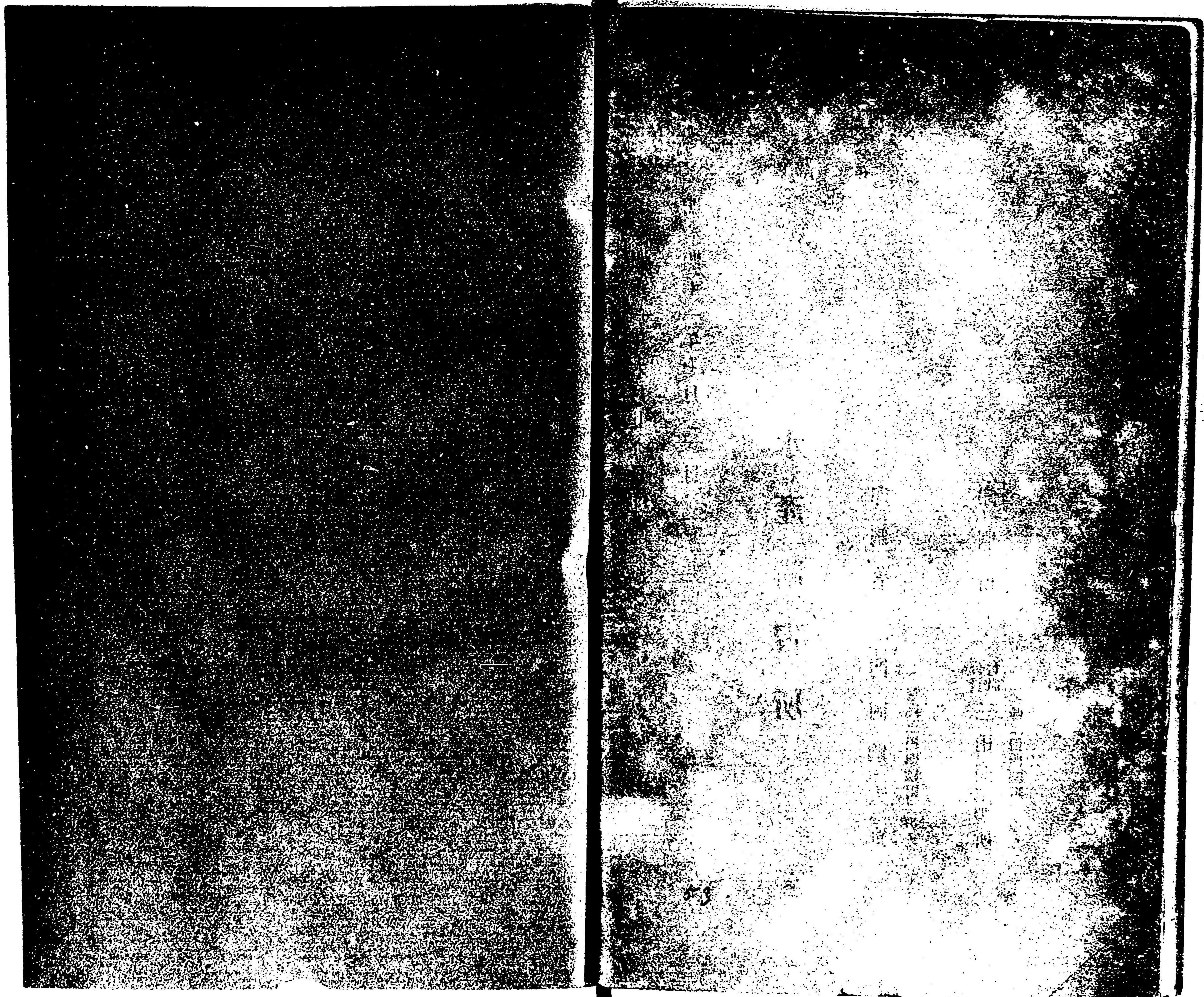
水產講習所

印制者 門岡駒太郎

芝區三田四國町二番地

印刷所 合資三田印刷所

芝區三田四國町二番地



296
3

